

参考文献

- 青木加苗 (2021) 「ミュージアムが新たな公共性のモデルを生み出すとき」、『ミュージアム・データ』82, 丹青研究所
- 青木真兵 (2021) 『手づくりのアジール——「土着の知」生まれるところ』晶文社
- 青木真兵・青木海青子 (2019) 『彼岸の図書館——ぼくたちの「移住」のかたち』夕書房
- (2020) 『山學ノオト』エイチアンドエスカンパニー
- (2021) 『山學ノオト2』エイチアンドエスカンパニー
- (2022) 『山學ノオト3』エイチアンドエスカンパニー
- (2023) 『山學ノオト4』エイチアンドエスカンパニー
- 青木海青子 (2022) 『本が語ること、語らせること』夕書房
- (2023) 『不完全な司書』晶文社
- 青柳英治編著 (2016) 『ささえあう図書館——「社会装置」としての新たなモデルと役割』岡本真監修, 勉誠出版 (ライブラリーぶっくす)
- 青柳正規 (2015) 『文化立国論——日本のソフトパワーの底力』ちくま新書
- 秋田光彦 (2009) 「お寺の資源力を活かす——市民参加型寺院・應典院の実験」, 上町台地コミュニティ・デザイン研究会編 『地域を活かすつながりのデザイン——大阪・上町台地の現場から』5章, 創元社
- (2011) 『葬式をしない寺——大阪・應典院の挑戦』新潮新書
- (2019) 「NPO との協働から、終活へ」, 大谷栄一編 『ともに生きる仏教——お寺の社会活動最前線』8章, ちくま新書
- 浅野智彦 (2011) 『趣味縁からはじまる社会参加』岩波書店 (シリーズ若者の気分)
- 朝比奈ミカ・菊池馨実 (2021) 『地域を変えるソーシャルワーカー』岩波ブックレット10
- アズワンネットワーク編集部 (2016) 『幸せをはこぶ会社 おふくろさん弁当——本当にあった! こんな会社 規則も命令も上司も責任もない!』アズワンネットワーク
- 新出 (2014) 『【変革の中で問う】図書館のガバナンスはどうあるべきか?』, 岡本真編 『ライブラリー・リソース・ガイド』8・2014 夏号 (特集: 教育委員会制度の改革), アカデミック・リソース・ガイド
- 姉崎洋一・鈴木敏正編著 (2002) 『公民館実践と「地域をつくる学び」』北樹出版 (叢書 地域をつくる学び)
- アブドラ, プリユノ・ナシム/メレス, フランソワ (2023[2016]) 『文化メディアシオン——作品と公衆を仲介するもの』波多野宏之訳, 白水社 (文庫クセジュ)
- アーバンデザインセンター研究会編著 (2012) 『アーバンデザインセンター——開かれたまちづくりの場』理工図書
- 阿部謹也 (1986) 『中世の星の下で』ちくま文庫
- (2001) 『学問と「世間」』岩波新書

参考文献

- (2003)『日本社会で生きるということ』朝日文庫
- (2014)『近代化と世間——私が見たヨーロッパと日本』朝日文庫
- 網野善彦 (1996)『増補 無縁・公界・楽——日本中世の自由と平和』平凡社ライブラリー
- (2017)『日本中世に何が起きたか——都市と宗教と「資本主義」』角川ソフィア文庫
- 新井勝紘 (1987)「五日市憲法」, 小木新造・陣内秀信・竹内誠他編『江戸東京学事典』三省堂
- (2006)「自由民権と結社」, 福田アジオ編『結衆・結社の日本史』(結社の世界史) IV章 3, 山川出版社
- 荒木優太 (2023)『サークル有害論——なぜ小集団は毒されるのか』集英社新書
- 蟻川恒正 (1997)「国家と文化」, 『岩波講座 現代の法1 現代国家と法』岩波書店
- 有川浩 (2011)『図書館戦争』角川文庫 (図書館戦争シリーズ)
- アレント, ハンナ (1994[1958])『人間の条件』志水速雄訳, ちくま学芸文庫
- (1995[1963])『革命について』志水速雄訳, ちくま学芸文庫
- アレント, ハンナ/コーン, ジェローム編 (2016[2003])『責任と判断』中山元訳, ちくま学芸文庫
- アンニョリ, アントネッラ (2011[2009])『知の広場——図書館と自由』萱野有美訳, みすず書房
- (2016[2011])『拝啓 市長さま, こんな図書館をつくりましょう』萱野有美訳, みすず書房
- 飯田市公民館編 (2018)『平成 29 年度 飯田市公民館活動記録』https://www.city.iida.lg.jp/uploaded/life/56130_128013_misc.pdf
- 飯田操 (2008)『パブとビールのイギリス』平凡社
- 「家の光」編集部 (2016)「地域おこしの歌謡ショー」, 『家の光』2016 年 7 月号, 家の光協会
- 猪谷千香 (2014)『つながる図書館——コミュニティの核をめざす試み』ちくま新書
- (2023)『小さなまちの奇跡の図書館』ちくまプリマー新書
- 池上英子 (2005)『美と礼節の絆——日本における交際文化の政治的起源』NTT 出版
- 池口龍法 (2014)『お寺に行こう!——坊主が選んだ「寺」の処方箋』講談社
- 池田賢市 (2013)『学校で育むアナキズム』新泉社
- 石井桃子 (2015)『新編 子どもの図書館』岩波現代文庫 (石井桃子コレクションⅢ)
- 石井洋二郎 (1993)『差異と欲望——ブルデュー『ディスタンクシオン』を読む』藤原書店
- (2020)『ブルデュー『ディスタンクシオン』講義』藤原書店
- 石川栄耀 (1926)『郷土都市の話になる迄 (4) 新章の二, 夜の都市計画 (つづき)』, 『都市創作』2 (1), 都市創作会
- (1928)「市民倶楽部三相『郷土都市の話になる迄』断章の一六」, 『都市創作』4 (4), 都市創作会
- 石川健治 (2008)「文化・制度・自律——“l'art pour l'art”」, 『法学教室』2008 年 3 月号, 論点講座 憲法の解釈 第 12 回 (Round4-3) 給付と規制, 有斐閣
- 石田麻子 (2021)『芸術文化助成の考え方——アーツカウンシルの戦略的投資』美学出版

- 石田頼房 (1992)「焼け跡に描いた理想都市——東京戦災復興都市計画」, 石田頼房編『未完の東京計画——実現しなかった計画の計画史』6章, ちくまライブラリー
- 石山洋 (2015)『源流から辿る近代図書館——日本図書館史話』日外アソシエーツ
- 磯井純充 (2014)「新時代におけるマイクロ・ライブラリー考察」, 『カレントアウェアネス』319・2014年3月20日, 国立国会図書館 <https://current.ndl.go.jp/cal812>
- (2015)『本で人をつなぐ まちライブラリーのつくりかた』学芸出版社
- (2024)『「まちライブラリー」の研究——「個」が主役になれる社会的資本づくり』みすず書房
- 市川市文学ミュージアム編 (2015)『没後五十年記念企画展 炎の人 式場隆三郎——医学と芸術のはざまで』市川市文学ミュージアム
- 一條彰子 (2023)「教育普及という仕事——東京国立近代美術館での25年をふりかえって」, 東京国立近代美術館『現代の眼』637 <https://www.momart.go.jp/magazine/154>
- 井手英策 (2018)『幸福の増税論——財政はだれのために』岩波新書
- (2019)『財政とベーシックインカム』, 佐々木隆治・志賀信夫編著『ベーシックインカムを問いなおす——その現実と可能性』法律文化社
- 井手英策編 (2021)『壁を壊すケア——「気かけあう街」をつくる』岩波書店
- 井手英策・今野晴貴・藤田孝典 (2018)『未来の再建——暮らし・仕事・社会保障のグランドデザイン』ちくま新書
- 井手英策・柏木一恵・加藤忠相・中島康晴 (2019)『ソーシャルワーカー——「身近」を革命する人たち』ちくま新書
- 出野紀子 (2018)「わたしたちのCo-Minkanをつくろう!」, 『月刊公民館』2018年12月, 全国公民館連合会編, 第一法規
- 伊藤寿朗 (1978)『近代博物館の出発』, 伊藤寿朗・森田恒之編著『博物館概論』総論編2章IV-1, 学苑社
- (1986)『地域博物館論——現代博物館の課題と展望』, 長浜功編『現代社会教育の課題と展望』6章, 明石書店
- (1991)『ひらけ, 博物館』岩波ブックレット
- (1993)『市民のなかの博物館』吉川弘文館
- 伊藤真訳 (2014)『現代語訳 日本国憲法』ちくま新書
- 伊藤正敏 (2020)『アジールと国家——中世日本の政治と宗教』筑摩選書
- 伊藤裕夫・松井憲太郎・小林真理編 (2010)『公共劇場の10年——舞台芸術・演劇の公共性の現在と未来』美学出版
- 稲庭彩和子・伊藤達矢 (2018)『美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト』とびらプロジェクト編, 青幻社
- 稲庭彩和子・伊藤達矢編著 (2022)『こどもと大人のためのミュージアム思考』左右社
- 犬塚まゆみ (2008)「まちづくりと図書館経営『市民力』——伊万里市民図書館」, 大串夏身編著『図書館の活動と経営』青弓社 (図書館の最前線)
- 井上智洋 (2018)『AI時代の新・ベーシックインカム論』光文社新書
- 井上真編 (2008)『コモンズ論の挑戦——新たな資源管理を求めて』新曜社
- 猪瀬浩平 (2020)『ボランティアってなんだっけ?』岩波ブックレット
- 伊原久裕 (2003)「赤いウィーンと情報のデザイン」, DGA 記録集編集委員会編『九州芸術工科大学公開講座 ドイツ, オーストリアのデザイン——芸術工学の過去と未来記

参考文献

- 録集』第6回, 九州芸術工科大学
- (2014)「アイソタイプからピクトグラムへ (1925-1976) ——オットー・ノイラーのアイソタイプとドルフ・モドレイによる図記号標準化への影響に関する研究」九州大学 https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/1470650/design0028.pdf
- 揖斐高 (2006)「社中・連中」, 福田アジオ編『結衆・結社の日本史』(結社の世界史) III 章1, 山川出版社
- 今まど子・高山正也編著 (2013)『現代日本の図書館構想——戦後改革とその展開』勉誠出版
- 今井照 (1993)『市民的公共性と自治——文化・コミュニティ・分権』公人の友社 (地方自治ジャーナルブックレット)
- (2017)『地方自治講義』ちくま新書
- 今福龍太 (2019)『宮沢賢治——デクノボーの叡知』新潮選書
- 岩本通弥 (2012)「民俗学と実践性をめぐる諸問題——「野の学問」とアカデミズム」, 岩本通弥・菅豊・中村淳編著『民俗学の可能性を拓く——「野の学問」とアカデミズム』1章, 青弓社
- 岩本通弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・川松あかり編 (2021)『民俗学の思考法——〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』慶應義塾大学出版会
- イリイチ, イヴァン (2015[1973])『コンヴィヴィアリティのための道具』渡辺京二・渡辺梨佐訳, ちくま学芸文庫
- 入江直子・新居 (細井) みどり・村田晶子・柳沢昌一 (2009)「コミュニティ学習支援専門職大学院——試行と構想」, 日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う——社会教育が提案する新しい専門職像』4部4章, 東洋館出版社
- 色川大吉 (1981)『自由民権』岩波新書
- 上田修一 (2006)「図書館情報学専門教育と図書館員の現職者教育」, 日本図書館情報学会研究委員会編『図書館情報専門職のあり方とその養成』勉誠出版 (シリーズ図書館情報学のフロンティア)
- 上田紀行 (2004)『がんばれ仏教! ——お寺ルネサンスの時代』NHK ブックス
- 上田幸夫 (2017)『公民館を創る——地域に民主主義を紡ぐ学び』国土社
- 上野千鶴子 (2011)『ケアの社会学——当事者主権の福祉社会へ』太田出版
- 上野谷加代子編著 (2020)『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割——地域福祉実践の挑戦』ミネルヴァ書房
- 上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編著 (2006)『松江市の地域福祉計画——住民の主体形成とコミュニティソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房
- 上野谷加代子・松端克文・永田祐編著 (2019)『新版よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)
- ヴェブレン, ソースタイン (1962[1921])「実行可能な技術者のソヴィエトにかんする覚書」, 『技術者と価格体制』6章, 小原敬士訳, 未来社
- 植村邦彦 (2010)『市民社会とは何か——基本概念の系譜』平凡社新書
- 上山信一 (1999)『「行政経営」の時代——評価から実践へ』NTT 出版
- (2002)『「政策連携」の時代——地域・自治体・NPOのパートナーシップ』日本評論社 (東京財団政策研究シリーズ)

- 上山信一・松森隆一(2008)「指定管理者制度」、『行政の解体と再生——ニッポンの“公共”を再構築する』4章, 東洋経済新報社
- ウェンガー, エティエンヌ/マクダーモット, リチャード/スナイダー, ウィリアム・M(2002[2002])『コミュニティ・オブ・プラクティス——ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』櫻井祐子訳, 翔泳社
- 宇沢弘文(1994)「社会的共通資本の概念」, 宇沢弘文・茂木愛一郎編『社会的共通資本——コモンズと都市』1章, 東京大学出版会
- (2000)『社会的共通資本』岩波新書
- (2015a)『宇沢弘文の経済学——社会的共通資本の論理』日本経済新聞出版社
- (2015b)『ヴェブレン』岩波人文書セレクション
- 宇沢弘文・高木郁朗編(1992)『市場・公共・人間——社会的共通資本の政治経済学』第一書林
- 氏原茂将(2015)「発表会が照らす公共ホールの役割」, 宮入恭平編著『発表会文化論——アマチュア表現活動を問う』5章, 青弓社ライブラリー
- 卯城竜太・松田修(2019)『公の時代——官民による巨大プロジェクトが相次ぎ、炎上やポリコレが広がる新時代。社会にアートが拡大するにつれ埋没してゆく「アーティスト」と、その先に消えゆく「個」の居場所を、二人の美術家がラディカルに語り合う。』朝日出版社
- 内川隆志(2022)「日本におけるコレクション形成史と文化財保護思想の底流」, 金山喜昭編『博物館とコレクション管理——ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用』1章, 雄山閣
- 内田和浩・佐藤進・長澤成次(2009)「社会教育職員論の課題」, 日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う——社会教育が提案する新しい専門職像』2部5章, 東洋館出版社
- 内田樹(2004)『街場の現代思想』NTT出版
- (2015)『困難な成熟』夜間飛行
- (2020)『サル化する世界』文藝春秋
- 内田樹・石川康宏(2013)『若者よ、マルクスを読もう——20歳代の模索と情熱』角川ソフィア文庫
- 内野安彦(2014)『図書館長論の試み——実践からの序説』樹村房
- 編著(2022)『行政マンとして図書館員が忘れてのこと』樹村房
- 『内子座』編集委員会編著(2016)『内子座——地域が支える町の劇場の100年』学芸出版社
- 内橋克人(1995)『共生の大地——新しい経済がはじまる』岩波新書
- 内橋克人・神野直彦(2015)「宇沢弘文の思想と仕事」, 『現代思想』2015年3月臨時増刊号(総特集:宇沢弘文——人間のための経済), 青土社
- 宇野重規著, 若林恵聞き手(2023)『実験の民主主義——トクヴィルの思想からデジタル、ファンダムへ』中公新書
- 宇野常寛(2015)『リトル・ピープルの時代』幻冬舎文庫
- 梅棹忠夫(1983)「文化行政がめざすもの」, 上田篤編著『行政の文化化——まちづくり21世紀に向けて』II-1, 学陽選書
- (1993)「都市と文化開発の三〇年」, 『梅棹忠夫著作集第21巻 都市と文化開発』

参考文献

- 中央公論社
- 梅棹忠夫・千地万造 (1980) 「ナチュラール・ヒストリーと市民」, 梅棹忠夫編『博物館の世界』中公新書
- 梅棹忠夫・筒井嘉隆 (1991) 「動物学と博物館」, 梅棹忠夫『知的市民と博物館』平凡社
- 梅原宏司 (2007) 「地方自治体の『文化行政』と、その背景をなす『市民』『自治』概念の関係についての一考察——松下圭一思想を中心に」, 『文化経済学』5 (3), 文化経済学会〈日本〉
- (2021) 「文部官僚寺中作雄の軌跡——「社会教育」と「文化政策」の関係を考える」, 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』32 (1・2), 近畿大学文芸学部
- 江藤光紀 (2022) 「劇場圏試論——その概念, 方法, 分析事例, そして意義」, 『論叢 現代語・現代文化』23, 筑波大学人文社会科学研究科現代語・現代文化専攻
- 海老澤昌子・武藤加奈子・越路ひろの (2021) 「調布市立中央図書館の組織化とサービス」, 蛭田廣一編『地域資料サービスの展開』2章, 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- MCL ボランティア (2008) 「NPO 法人 MCL ボランティアと宮崎市立図書館」, 大串夏身編著『図書館の活動と経営』5章, 青弓社 (図書館の最前線)
- OECD (経済協力開発機構) Open Government Unit (2023[2020]) 『世界に学ぶミニ・パブリックス——くじ引きと熟議による民主主義のつくり方』日本ミニ・パブリックス研究フォーラム訳, 学芸出版社
- オーウェル, ジョージ (2021[1949]) 『1984』田内志文訳, 角川文庫
- 奥州市立後藤新平記念館 (2022) 『新平通信』2022年4月 https://www.city.oshu.iwate.jp/material/files/group/133/48419_166640_misc.pdf
- 大内秀明 (2012) 『ウィリアム・モリスのマルクス主義——アーツ&クラフツ運動を支えた思想』平凡社新書
- 大川正彦 (2004) 『マルクス——いま, コミュニズムを生きるとは?』NHK出版 (シリーズ・哲学のエッセンス)
- 大串隆吉・田所祐史 (2021) 『日本社会教育史』有信堂高文社
- 大窪敏三 (1999) 『真っ直ぐ』南風社
- 大窪一志 (2010) 『アナキズムの再生』にんげん出版 (モナド新書)
- (2014) 『自治社会の原像』花伝社
- (2021) 『相互扶助の精神と実践——クロボトキン『相互扶助論』から学ぶ』同時代社
- 大阪自然史センター・大阪市立自然史博物館編 (2003) 『「学校」・「地域」と自然史博物館——平成14年度文部科学省「科学系博物館教育機能活用事業」のとりくみから』大阪自然史センター・大阪市立自然史博物館
- 大阪市立自然史博物館 (2005) 『第34回特別展 なにわのナチュラリスト——自然の達人たち』大阪市立自然史博物館
- 大澤真幸 (2019) 「交響するD」, 柄谷行人・見田宗介, 大澤真幸編著『戦後思想の到達点——柄谷行人, 自身を語る 見田宗介, 自身を語る』終章, NHK出版 (シリーズ・戦後思想のエッセンス)
- (2023) 「公共圏とルール圏」, 『資本主義の〈その先〉へ』筑摩書房
- 大澤真幸・斎藤幸平 (2023) 『未来のための終末論』左右社

- 太下義之 (2017) 『アーツカウンシル——アームズ・レングスの現実を超えて』 水曜社
(文化とまちづくり叢書)
- (2023) 「アーツカウンシルとガバナンス——ガバナンスが検閲に変貌するとき」,
『都市問題』 114・2023 年 8 月号 (特集 2: 文化芸術とガバメント), 後藤・安田記念
東京都市研究所
- 大城善盛 (2019) 『司書職制度の再構築——日本の図書館職に求められる専門性』 日本評
論社
- 大住莊四郎 (1999) 『ニュー・パブリック・マネジメント——理念・ビジョン・戦略』 日
本評論社
- (2002) 『パブリック・マネジメント——戦略行政への理論と実践』 日本評論社
- 大田暁雄 (2021) 「視覚言語による社会革命——オットー・ノイラートの『社会と経済』
アトラス」, 『世界を一枚の紙の上に——歴史を変えたダイアグラムと主題地図の誕
生』 7 章, オーム社
- 太田剛・入澤誠 (2019) 「図書館が変わる, まちの未来が変わる」, 大正大学地域構想研
究所編『地域人』 42 (特集: 図書館とまちづくり), 大正大学出版会
- 太田剛・脇坂敦史 (2020) 「新世代図書館がヒト・モノ・コトの結びつきを取り戻す」,
『CEL: Culture, energy & Life』 2020 年 3 月号 (特集: 異なるものをつなぐ——混
じり合い, 創造する場とは), 大阪ガスネットワーク (株) エネルギー・文化研究所
- 大谷栄一編 (2019) 『ともに生きる仏教——お寺の社会活動最前線』 ちくま新書
- 大塚英志 (2014) 『社会をつくれなかったこの国がそれでもソーシャルであるための柳田
國男入門』 角川 EPUB 選書
- 大塚信一 (2014) 『松下圭一 日本を変える——市民自治と分権の思想』 トランスビュー
- 大橋謙策 (2006) 「21 世紀型社会システムづくりと地域福祉——福祉文化と地域福祉計
画」, 上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編著『松江市の地域福祉計画——住民の主
体形成とコミュニティソーシャルワークの展開』 第 1 章, ミネルヴァ書房
- (2011) 「最終講義『社会事業』の復権とコミュニティソーシャルワーク」, 『日
本社会事業大学研究紀要』 57 (大橋謙策教授退任記念号)
- 大橋崇行著・小曾川真貴監修 (2018) 『司書のお仕事——お探しの本は何ですか?』 勉誠
出版
- (2020) 『司書のお仕事 2——本との出会いを届けます』 勉誠出版
- 岡崎大輔 (2018) 『なぜ、世界のエリートはどんなに忙しくても美術館に行くのか?』 SB
クリエイティブ
- 岡崎裕史 (2022) 『Web3 とは何か——NFT, ブロックチェーン, メタバース』 光文社新
書
- 岡野春樹 (2015) 「多才の人 式場隆三郎」, 市川市文学ミュージアム編『没後五十年記念
企画展 炎の人 式場隆三郎——医学と芸術のはざままで』 市川市文学ミュージアム
- 岡部一明 (2009) 『市民団体としての自治体』 御茶の水書房
- 岡本真 (2018) 『未来の図書館, はじめます』 青弓社
- (2021) 「情報・知識のための『図書館』(仮称)を再設計(リ・デザイン)する
——図書館の DX を踏まえて」, 『自治実務セミナー』 2021 年 7 月号 (特集: 公共図
書館のこれから), 第一法規
- 岡本真・島津晴子・酒井直子 (2023) 『LRG ライブラリー・リソース・ガイド』 45 (特

- 集：文化資源保全と図書館・博物館——越境して未来を考える，責任編集：佐々木秀彦・佐久間大輔），アカデミック・リソース・ガイド
- 岡本真・ふじたまさえ（2017）『図書館100連発』青弓社
- 岡本真・森旭彦（2014）『未来の図書館，はじめませんか？』青弓社
- 岡村敬二（1986）『表現としての図書館』青弓社
- 小川徹・奥泉和久・小黒浩司（2006）『公共図書館サービス・運動の歴史1——そのルーツから戦後にかけて』日本図書館協会（JLA 図書館実践シリーズ）
- 小川徹・奥泉和久・小黒浩司（2006）『公共図書館サービス・運動の歴史2——戦後の出発から現代まで』日本図書館協会（JLA 図書館実践シリーズ）
- 小川仁志（2011）『すっきりわかる！——超訳「哲学用語」事典』PHP文庫
- 荻野亮吾（2022）『地域活動を通じた社会関係資本の醸成過程——長野県飯田市を事例として』、『地域社会のつくり方——社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ』5章，勁草書房
- 荻原幸子（2016）『アメリカの公共図書館における図書館委員会の意思決定——図書館関連雑誌の記事に見る近年の状況』、『人文科学年報』46，専修大学人文科学研究科 https://senshuu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=7520&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- （2018）『公共図書館運営における住民との「協働」』，日本図書館情報学会研究委員会編『公共図書館運営の新たな動向』勉誠出版（わかる！図書館情報学シリーズ）
- 奥村高明（2015）『エグゼクティブは美術館に集う』光村図書出版
- 奥村隆（2023）『磁場のユートピア／圏域のユートピア』、『思想』1192・2023年8月号（特集：見田宗介／真木悠介，岩波書店）
- 小倉紀蔵（2022）『弱いニーチェ——ニヒリズムからアニメシーへ』筑摩選書
- 小澤隆博（2022）『DAOの衝撃——web3時代のまったく新しい組織と働き方』明日香出版社
- 小沢信男（2008）『裸の大将一代記——山下清の見た夢』ちくま文庫
- 生島美和（2006）『棚橋源太郎の郷土博物館論の現代的意義——地域博物館論の基盤としての位置づけ』、『教育学論集』2，筑波大学大学院人間総合科学研究科教育学専攻 <https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/16298/files/4.pdf>
- オストロム，エリノア（2022[1990]）『コモンズのガバナンス——人びとの協働と制度の進化』原田禎夫・齋藤暖生・嶋田大作訳，晃洋書房
- 小田光雄（2001）『図書館逍遥』編書房
- 小田光宏（2006）『公共図書館職員の養成における課題と視座』，日本図書館情報学会研究委員会編『図書館情報専門職のあり方とその養成』勉誠出版（シリーズ図書館情報学のフロンティア）
- （2016）『図書館養成教育と研修』，日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』VI, D，日本図書館協会
- 小田垣宏和（2019）『図書館パートナーズのつくり方——図書館からのコミュニティづくり』郵研社
- 小田巻友子（2016）『ポスト福祉国家におけるコ・プロダクションと協同組合——福祉供給をめぐる利用者主権の確立』、『社会政策』8（1），社会政策学会

- 落合知子 (2019) 『野外博物館の研究 (普及版)』雄山閣
- 小野七郎 (1974) 「読書家、衣笠さん」, 「回想 衣笠静夫」刊行会『ロマンと広告——回想 衣笠静夫』東京広告協会
- 小野二郎 (1992) 『ウィリアム・モリス——ラディカル・デザインの思想』中公文庫
- 小野達也 (2020) 「業績測定と評価指標」, 源由理子・大島巖編著『プログラム評価ハンドブック——社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』11章, 晃洋書房
- 小野寺拓也 (2023) 「いま〈悪の凡庸さ〉の何が問題なのか」, 田野大輔・小野寺拓也編著『〈悪の凡庸さ〉を問い直す』序, 大月書店
- 鬼木和浩 (2023) 「文化政策の行政運営論」, 『都市問題』114・2023年8月号 (特集2: 文化芸術とガバメント), 後藤・安田記念東京都市研究所
- 小美玉市公共ホール運営委員会・小美玉市まると文化ホール計画策定プロジェクトチーム編 (2012) 『小美玉市まると文化ホール計画』小美玉市
- 小山勉 (2006) 『トクヴィル——民主主義の三つの学校』ちくま学芸文庫
- オーラルヒストリー研究会編 (1998) 『中小都市における公共図書館の運営』の成立とその時代』日本図書館協会
- オルテガ・イ・ガセット, ホセ (2009[1930]) 『大衆の反逆』桑名一博訳, 白水社 (白水Uブックス)
- オルデンバーグ, レイ (2013[1989]) 『サードプレイス——コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』忠平美幸訳, みすず書房
- オロズ, ジョエル・J (2005[2000]) 『助成という仕事——社会変革におけるプログラム・オフィサーの役割』牧田東一監修, 長岡智子・鈴木智子・平岩あかね・小林香織編, 明石書店
- 片野親義 (2015) 『公民館職員の仕事——地域の未来づくりと公民館の役割』ひとなる書房
- 片山泰輔 (2019) 「地方自治体における文化政策の充実に向けて——地域の『アーツカウンシル』の在り方を共に考えるために」, コミニケ出版『「地域の文化施策推進体制構築のためのフォーラム」報告書』文化庁
- 片山正夫 (2019) 「ミッション志向型組織をどう創るか——地域版アーツカウンシルを機能させるために」, コミニケ出版『「地域の文化施策推進体制構築のためのフォーラム」報告書』文化庁
- 片山善博・糸賀雅児 (2016) 『地方自治と図書館——「知の地域づくり」を地域再生の切り札に』勁草書房
- 香月恵里 (2023) 「〈悪の凡庸さ〉は無効になったのか——エルサレム〈以前〉のアイヒマンを検証する」, 田野大輔・小野寺拓也編著『〈悪の凡庸さ〉を問い直す』第I部1, 大月書店
- 勝見明 (2011) 『石ころをダイヤに変える「キュレーション」の力』潮出版社
- 桂英史 (2001) 『人間交際術——コミュニティ・デザインのための情報学入門』平凡社新書
- 加藤幸治 (2017) 『復興キュレーション——語りのオーナーシップで作り伝える“くじらまち”』(キオクのヒキダシ2), 社会評論社
- (2018) 『文化遺産シェア時代——価値を深掘る“ずらし”の視角』社会評論社
- (2020) 『渋沢敬三とアチック・ミュージアム——知の共鳴が創り上げた人文学の

参考文献

- 理想郷」勉誠出版
- 加藤博史・岡野英一・竹之下典祥・竹川俊夫編（2016）『地域福祉のオルタナティブ——〈いのちの尊厳〉と〈草の根民主主義〉からの再構築』井岡勉・賀戸一郎監修，法律文化社
- 門田岳久（2023）『宮本常一——〈抵抗〉の民俗学 地方からの叛逆』慶應義塾大学出版会
- 神奈川県図書館協会図書館評価特別委員会編（2007）『公共図書館の自己評価入門』日本図書館協会（JLA 図書館実践シリーズ）
- 金澤周作（2021）『チャリティの帝国——もうひとつのイギリス近現代史』岩波新書
- 金山喜昭（2012）『公立博物館をNPOに任せたら——市民・自治体・地域の連携』同成社
- （2017）「指定管理館の基本的な構造と行政上の留意点」、『博物館と地方再生——市民・自治体・企業・地域との連携』I部6章，同成社
- （2019）「市民のキャリアデザインと地域コミュニティの拠点づくりをめざす——野田市郷土博物館の事例を通して」，松本茂明編著『岐路に立つ指定管理者制度——変容するパートナーシップ』7章，水曜社
- （2020）「指定管理者制度と博物館の動向」金山喜昭編『転換期の博物館経営——指定管理者制度・独立行政法人の検証と展望』1章，同成社
- 金子淳（2014）「棚橋源太郎と博物館事業促進会」，浜田弘明編『博物館の理論と教育』3・2，朝倉書店（シリーズ現代博物館学1）
- （2016）「地域博物館における『転回』への視座—伊藤寿朗『地域博物館論』の検討を中心に」，明治大学学芸員養成課程編『Museologist：明治大学学芸員養成課程年報』31
- 金子郁容（1992）『ボランティア——もうひとつの情報社会』岩波新書
- 兼村高文（2019）「公共経営（NPM）による地方行革の四半世紀を振り返る——日英比較をとおして」，『地方財政レポート2018 経済・財政・社会保障のこれまでとこれから』5章，地方自治総合研究所
- 鎌田均（2011）『「エンベディッド・ライブラリアン」：図書館サービスモデルの米国における動向』、『カレントアウェアネス』309・2011年9月20日，国立国会図書館 <https://current.ndl.go.jp/ca1751>
- （2018）「エンベディッド・ライブラリアンにみる図書館環境の変化」，『情報の科学と技術』68（1），情報科学技術協会
- 嘉村賢州（2018）「解説」，ラルー，フレデリック『ティール組織——マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現』鈴木立哉訳，英治出版
- 亀井聡彦・鈴木雄大・赤澤直樹（2022）『Web3とDAO——誰もが主役になれる「新しい経済」』かんき出版
- 柄谷行人（2011）『「世界史の構造」を読む』インスクリプト
- （2015）『世界史の構造』岩波現代文庫
- （2020）『哲学の起源』岩波現代文庫
- （2021）『ニュー・アソシエーションист宣言』作品社
- （2022）『力と交換様式』岩波書店
- 柄谷行人他（2023）『柄谷行人『力と交換様式』を読む』文春新書

- 苅部直 (2007)『移りゆく「教養」』NTT 出版 (日本の〈現代〉)
- 川井田祥子 (2013)『障害者の芸術表現——共生的なまちづくりにむけて』水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- (2020)『障害者と表現活動——自己肯定と承認の場をはぐくむ』水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- 川島智生 (2015)『近代京都における小学校建築』ミネルヴァ書房
- (2017)『近代大阪の小学校建築史』大阪大学出版会
- 河島伸子 (2020)「新たなミュージオロジー」, 河島伸子・小林真理・土屋正臣『新時代のミュージアム——変わる文化政策と新たな期待』ミネルヴァ書房
- 川添登 (2004)『今和次郎——その考現学』ちくま学芸文庫
- 川田稔 (2016)『柳田国男——知と社会構想の全貌』ちくま新書
- 河出書房新社 (2013)『今和次郎と考現学——暮らしの“今”をとらえた〈目〉と〈手〉』KAWADE 道の手帖
- 川端康夫 (2016)「宮沢賢治と羅須地人協会」,『ウィリアム・モリスの遺したもの——デザイン・社会主義・手しごと・文学』岩波書店
- 川邊咲子 (2023)「民具の「緩やかな保存」——奥能登国際芸術祭『珠洲の大蔵ざらえ』, 国立歴史民俗博物館・川村清志・天野真志編『REKIHAKU』8 (特集: アートがひらく地域文化), 国立歴史民俗博物館
- 河村建夫・伊藤信太郎編著 (2018)『文化芸術基本法の成立と文化政策——真の文化芸術立国に向けて』水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- 神田尚美・隈元恒・佐藤賢二 (2021)「岡山県立図書館の魅力発信と『デジタル岡山大百科』」, 蛭田廣一編『地域資料サービスの展開』7 章, 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- 菅野覚明 (2023)『柳田国男』清水書院 (人と思想)
- 菅野幸子 (2018)「創造都市と創造産業の隆盛」, 小林真理編『文化政策の現在 2——拡張する文化政策』8 章, 東京大学出版会
- 上林陽治 (2021)『非正規公務員のリアル——欺瞞の会計年度任用職員制度』日本評論社
- 菊地暁 (2022)『民俗学入門』岩波新書
- 岸政彦 (2020)『100 分 de 名著 ブルデュー ディスタンクシオン』NHK 出版
- 北克一 (2009)「私立図書館と図書館同種施設」, 塩見昇・山口源治郎編著『新図書館法と現代の図書館』II-8 章, 日本図書館協会
- 北川フラム (2015)『ひらく美術——地域と人間のつながりを取り戻す』ちくま新書
- 北川順也 (2011)『お寺が救う無縁社会』幻冬舎ルネッサンス新書
- 北九州市芸術文化振興財団北九州芸術劇場 (2017)『北九州芸術劇場事業評価調査 (その 13) 報告書』
- 北村志麻 (2018)「図書館における協働の実態とその未来」, 日本図書館協会現代の図書館編集委員会編『現代の図書館』56 (3)・2018 年 3 月号 (特集: 協働する図書館), 日本図書館協会
- (2019)「公共図書館と新規事業ボランティア——協働でのイベント運営」, 日本図書館協会図書館雑誌編集委員会編『図書館雑誌』113 (9)・2019 年 9 月号 (特集: ボランティアとの協働を考える), 日本図書館協会
- 木下大生・藤田孝典 (2015)『知りたい!——ソーシャルワーカーの仕事』岩波ブックレ

参考文献

ット

- 木下長宏 (1995) 『中井正一——新しい「美学」の試み』リプロボート (シリーズ民間日本学者)
- 木下巨一 (2009) 「長野県飯田市における公民館的行政の展開と職員」, 日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う——社会教育が提案する新しい専門職像』2部3章4節, 東洋館出版社
- (2023) 「自治と協働の地域づくり——住民も職員も学び育つ, 飯田型公民館の取り組みから」, 辻浩・細山俊男・石井山竜平編, 社会教育・生涯学習研究所監修『地方自治の未来をひらく社会教育』1章, 自治体研究社
- 木下陸奥 (2012) 『地域と公民館——自治への憧憬』南信州新聞社出版局
- 木下究 (2013) 「コミュニティ・ファシリテーターとしての公立図書館職員」, 日本図書館協会現代の図書館編集委員会編『現代の図書館』55 (3), 日本図書館協会
- 君塚仁彦 (1991) 「学んだこと・感動したこと——恩師・伊藤寿朗先生への言葉」, 『教育学研究年報』10, 東京学芸大学教育学科
- (2003) 「博物館展示論の視座から『地域博物館論』を読み直す」, 『大阪人権博物館紀要』7, 大阪人権博物館
- (2015) 「伊藤寿朗——市民主体の地域博物館を構想した在野の博物館学研究者」, 『月刊社会教育』編集委員会編『人物でつづる戦後社会教育』国土社
- 君塚仁彦・吉村智博「討論2『市民』『地域博物館』概念の再検討」, 『大阪人権博物館紀要』7, 大阪人権博物館
- 木村容子・小原真知子編著 (2019) 『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房 (しっかり学べる社会福祉)
- 協同総合研究所 (2019) 『ワーカーズコープ 協同ではたらくガイドブック——入門編』
- (2020) 『協同の発見』330・2020年5月 (特集: 労働者協同組合運動から労働者協同組合法ができる——市民・労働者が主人公となる地域づくり, 職場づくりを本格化するために)
- (2021) 『ワーカーズコープ 協同ではたらくガイドブック——実践編』
- 金容媛 (2007) 「主要国の司書養成教育および資格・司書職制度の現況——韓国, 米国, 英国を中心に」, 『文化情報学 駿河台大学文化情報学部紀要』14 (2), 駿河台大学文化情報学部
- 工藤律子 (2015) 『ルボ 雇用なしで生きる——スペイン発「もうひとつの生き方」への挑戦』岩波書店
- (2020) 『ルボ つながりの経済を創る——スペイン発「もうひとつの世界」への道』岩波書店
- 久保輝巳 (1994) 『図書館司書という仕事 改訂版』ペリかん社
- 熊野純彦 (2018) 『マルクス——資本論の哲学』岩波新書
- 倉貫義人 (2019) 『管理ゼロで成果はあがる——「見直す・なくす・やめる」で組織を変えよう』技術評論社
- グラムシ, アントニオ (2001) 『グラムシ・セレクション』片桐薫編訳, 平凡社ライブラリー
- (2017) 『革命論集』上村忠男編訳, 講談社学術文庫
- 栗田秀法 (2022) 「博物館法の大? 改正と残された課題」, 『芸術批評誌リア 芸術・批

評・ドキュメント』49 (特集: どう変わる? 文化観光と博物館), リア制作室
クリネンバーク, エリック (2021[2010]) 『集まる場所が必要だ——孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学』藤原朝子訳, 英治出版
栗山究 (2021) 「学芸員——成り立ちと論点を中心に」, 『月刊社会教育』2021年5月号 (特集: 社会教育職員はいま), 旬報社
グルエンバウム, ミハエル/ハサク=ロウィ, トッド (2021[2015]) 『太陽はきっとどこかで輝いている——ホロコーストの記憶』林幸子・酒井佑子訳, 新評論
暮沢剛巳 (2021) 『拡張するキュレーション——価値を生み出す技術』集英社新書
グレーバー, デヴィッド (2020[2018]) 『ブルシット・ジョブ——クソどうでもいい仕事の理論』酒井隆史・芳賀達彦・森田和樹訳, 岩波書店
桑原芳哉 (2014) 「図書館整備『反対運動』とその争点」, 『カレントアウェアネス』322, 2014年12月20日, 国立国会図書館 <http://current.ndl.go.jp/ca1834>
—— (2018) 「指定管理者制度の新たな動向」, 日本図書館情報学会研究委員会編『公共図書館運営の新たな動向』勉誠出版 (わかる! 図書館情報学シリーズ)
ケア・コレクティヴ (2020[2020]) 『ケア宣言——相互依存の政治へ』岡野八代・富岡薫・武田宏子訳, 大月書店, 2021
経済協力開発機構 (OECD)・国際博物館会議 (ICOM) (2019) 『文化と地域発展: 最大限の成果を求めて——地方政府, コミュニティ, ミュージアム向けガイド』<https://icomjapan.org/wp/wp-content/uploads/2020/03/OECD-ICOMguide.pdf>
「月刊社会教育」編集委員会編 (2005) 『公民館60年——人と地域を結ぶ「社会教育」』国土社
—— (2021) 『月刊社会教育』2021年10月号 (特集: 新しい図書館の可能性), 旬報社
小泉秀樹 (2016) 「少子高齢社会における共同のコミュニティデザインの可能性と課題」, 小泉秀樹編『コミュニティデザイン学——その仕組みづくりから考える』はじめに, 東京大学出版会
神山典士 (2017) 「市民目線のアイデアで人を育て, まちづくりを担う 北海道砂川市 砂川市地域交流センターゆう」, 『地域創造』41
—— (2021) 「蔵や納屋に眠る地域の歴史や生活をアートで発信する『劇場型民俗ミュージアム』構想——石川県珠洲市 珠洲の大蔵ざらえプロジェクト」, 『地域創造』46
國分功一郎 (2013) 『来たるべき民主主義——小平市都道328号線と近代政治哲学の諸問題』幻冬舎新書
國分功一郎・山崎亮 (2017) 『僕らの社会主義』ちくま新書
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編 (2015) 『社会教育推進のPDCAサイクルを確立するために必要とされる評価指標の在り方に関する調査研究報告書』
国立歴史民俗博物館・川村清志・天野真志編 (2023) 『REKIHAKU』8 (特集: アートがひらく地域文化), 国立歴史民俗博物館
国連貿易開発会議 (UNCTAD) (2014) 『クリエイティブ経済』明石芳彦・中本悟・小長谷一之・久末弥生訳, ナカニシヤ出版
越沢明 (1991) 『東京の都市計画』岩波新書
小島明子・福田隆行 (2022) 『協同労働入門』産労総合研究所出版部経営書院
越村康英 (2021) 「社会教育主事・公民館主事制度をめぐる現状と課題」, 『月刊社会教育』2021年5月号 (特集: 社会教育職員はいま), 旬報社

参考文献

- 後藤和子 (1998) 『芸術文化の公共政策』 勁草書房
- 後藤新平 (2009) 『自治 シリーズ後藤新平とは何か 自治・公共・共生・平和』 藤原書店
- 小西友七編 (2006) 『現代英語語法辞典』 三省堂
- 五ノ井健 (2017) 「日本の議員立法」, 『早稲田政治公法研究』 114, 早稲田大学大学院政治学研究科 https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=40519&item_no=1&attribute_id=162&file_no=1
- 小林章夫 (1992) 『パブ——大英帝国の社交場』 講談社現代新書
- 小林是綱・丸山高弘・吉井潤 (2008) 「山中湖情報創造館——NPO が初めて指定管理者として協定した公共図書館」, 大串夏身編著『図書館の活動と経営』 4 章, 青弓社 (図書館の最前線)
- 小林文人 (1977) 「社会教育施設の諸原則」, 小林文人編『公民館・図書館・博物館』 I-2, 亜紀書房 (講座現代社会教育IV)
- (2005) 「これからの公民館の展望をどうえがか」, 「月刊社会教育」編集委員会編『公民館 60 年 人と地域を結ぶ「社会教育」』 I-1, 国土社
- 小林真理 (2004) 『文化権の確立に向けて——文化振興法の国際比較と日本の現実』 勁草書房
- (2010) 「専門家と文化施設」, 伊藤裕夫・松井憲太郎・小林真理編『公共劇場の 10 年——舞台芸術演劇の公共性の現在と未来』 美学出版
- (2018a) 「指定管理者制度時代の文化振興財団の課題と展望」, 小林真理編『文化政策の現在 2 ——拡張する文化政策』 10 章, 東京大学出版会
- (2018b) 「自治体文化行政論再考」, 小林真理編『文化政策の現在 3 ——文化政策の展望』 5 章, 東京大学出版会
- 監修・編著 (2022) 『自治体文化行政レッスン 55』 美学出版
- 小林真理・小島立・土屋正臣・中村美帆 (2021) 『法から学ぶ文化政策』 有斐閣
- 小林瑠音 (2023) 『英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル——タンポポとバラの攻防』 水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- 小原康弘 (2013) 「福岡共同公文書館の開館とその取組について」, 国立公文書館編『アーカイブス』 49 https://www.archives.go.jp/publication/archives/wp-content/uploads/2015/03/acv_49_p01.pdf
- 小松田儀貞 (2022) 『社会化するアート／アート化する社会——社会と文化芸術の共進化』 水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- 小松理虔 (2021) 『地方を生きる』 ちくまプリマー新書
- 駒村圭吾 (2010) 「国家と文化」, 『ジェリスト』 1405・2010 年 8 月 1 日 -15 日合併号, 有斐閣
- (2013) 「国家助成と自由」, 小山剛・駒村圭吾編『論点探究 憲法』 第 2 版, 17, 弘文堂
- 是枝英子他編著 (1995) 『現代公共図書館・半世紀の歩み』 日本図書館協会
- 小和田武紀編著 (2008) 『公民館図説 (復刻版)』 全国公民館連合会
- 近藤雅樹編 (2001) 『図解 大正昭和くらしの博物誌——民族学の父・渋沢敬三とアチック・ミュージアム』 河出書房新社 (ふくろうの本)
- (2013) 「渋沢敬三とアチックミュージアム」, 『特別展 屋根裏部屋の博物館』 国立民族学博物館

- 今和次郎 (1987)『考現学入門』藤森照信編, ちくま文庫
- (2011)『今和次郎 採集講義』畑中章宏・森かおる編, 青幻舎
- 斎藤幸平 (2012)「福祉国家の危機を越えて——「市民労働」と「社会インフラ」におけるベーシックインカム」, 萱野稔人編『ベーシックインカムは究極の社会保障か——「競争」と「平等」のセーフティネット』堀之内出版
- (2020)『人新世の「資本論」』集英社新書
- (2023)『ゼロからの『資本論』』NHK 出版新書
- 斎藤幸平・松本卓也編著 (2023)『コモンの「自治」論』集英社
- 齋藤孝 (2021)『世界の見方が変わる 50 の概念』草思社文庫
- 斎藤槇 (2004)『社会起業家——社会責任ビジネスの新しい潮流』岩波新書
- 斉藤弥生 (2020)「「共助」再考とニュー・パブリック・ガバナンス」, 上野谷加代子編著『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割——地域福祉実践の挑戦』第2章, ミネルヴァ書房
- 斎藤雷太郎 (1984)「善意を組織するために」, 『思想の科学』1984年11月号, 思想の科学社
- 五月女賢司 (2021)「吹田市立博物館における新型コロナ資料の収集と展示」, 『デジタルアーカイブ学会誌』5 (1) (特集: 新型コロナウィルス感染とアーカイブ), デジタルアーカイブ学会
- 坂井一隆取材・執筆 (2018)「瀬戸内市民図書館 もみわ広場」, 『PASSION』40, 金剛株式会社社長室
- 酒井悌 (1981)「副館長就任まで」, 久野収編『中井正一全集4 文化と集団の倫理』付録, 美術出版社
- 阪上孝 (2023)『ブルードンの社会革命論』平凡社ライブラリー
- 坂本慶一 (1994)『マルクス主義とユートピア』精選復刻紀伊國屋新書
- 佐久間大輔 (2009)「博物館が地域に根付くしかけ」, 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編『「自然史博物館」を変えていく』3-1, 高陵社書店
- (2022)「2022年博物館法改正の道程と論点」, 『ヒストリア』291, 大阪歴史学会
- 櫻井常矢 (2006)「公民館の指定管理者制度——NPOと社会教育の公共性」, 小林真理編著『指定管理者制度——文化的公共性を支えるのは誰か』7章, 時事通信社出版社
- 桜井政成 (2020)『コミュニティの幸福論——助け合うことの社会学』明石書店
- 佐々木亨・今村信隆 (2023)『改訂新版 博物館経営論』放送大学教育振興会
- 佐々木俊尚 (2011)『キュレーションの時代——「つながり」の情報革命が始まる』ちくま新書
- 佐々木秀彦 (2013)『コミュニティ・ミュージアムへ——「江戸東京たてもの園」再生の現場から』岩波書店
- (2017)『日本博物館協会による『対話と連携の博物館』——市民とともに作る新時代の博物館へ』, 山西良平・佐久間大輔編『日本の博物館のこれから——「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営』https://omnh.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=14&item_no=1&page_id=13&block_id=21
- (2020)「博物館関係者の倫理規程 国内外と類縁機関の現状」, 大阪市立自然史博物館編『日本の博物館のこれからⅡ——博物館の在り方と博物館法を考える』大阪市

参考文献

- 立自然史博物館 https://omnh.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=1519&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1
- 佐々木雅幸 (2012) 『創造都市への挑戦——産業と文化の息づく街へ』 岩波現代文庫
- 佐々木雅幸・総合研究開発機構編 (2007) 『創造都市への展望——都市の文化政策とまちづくり』 学芸出版社
- 佐々木隆治 (2016) 『カール・マルクス——「資本主義」と闘った社会思想家』 ちくま新書
- サスカインド, リチャード/サスカインド, ダニエル (2017[2015]) 『プロフェッショナルの未来——AI, IoT 時代に専門家が生き残る方』 朝日新聞出版
- 佐藤篤 (2021) 「議員提案による墨田区立図書館条例修正の経験を振り返る」, 岡本真責任編集『ライブラリー・リソース・ガイド』 34・2021 年冬号 (特集: 条例からみる「図書館」), アカデミック・リソースガイド
- 佐藤郁哉 (2019) 『大学改革の迷走』 ちくま新書
- 佐藤一子 (1989) 『地域文化の再生と創造——飯田市の人形劇カーニバル』, 『文化協同の時代——文化的享受の復権』 青木書店
- 佐藤直樹 (2001) 『「世間」の現象学』 青弓社 (青弓社ライブラリー)
- (2008) 『暴走する「世間」——世間のオキテを解析する』 バジリコ (木星叢書)
- 佐藤望他 (2005) 『公共ホールの政策評価——「指定管理者制度」時代に向けて』 中矢一義監修, 慶應義塾大学出版会
- 佐藤学 (2001) 「専門家像の転換——反省的实践家へ」, ショーン, ドナルド『専門家の知恵——反省的实践家は行為しながら考える』 訳者序文, 佐藤学・秋田喜代美訳, ゆみ出版
- 佐藤慶幸 (2002) 『アソシエーティブ・デモクラシー——自立と連帯の統合へ』 有斐閣
- 佐野眞一 (2001a) 『宮本常一が見た日本』 日本放送出版協会
- (2001b) 『だれが「本」を殺すのか』 プレジデント社
- (2002) 『だれが「本」を殺すのか 延長戦』 プレジデント社
- (2004) 「正力松太郎 (1855-1969) ——読売新聞再生の秘話」, 御厨貴編『時代の先覚者・後藤新平——1857-1929』 藤原書店
- (2009) 『旅する巨人——宮本常一と渋沢敬三』 文春文庫
- 佐野利器 (1928) 「公会堂に就て——東京市公会堂建設に当たり」『都市問題』 6 (1), 東京市政調査会
- 澤見彰 (2020) 『屋根裏博物館 (アチック・ミュージアム) の事件簿』 中公文庫
- 榎木野衣 (2015) 『アウトサイダー・アート入門』 幻冬舎新書
- 早良朋 (2017-2023) 『へんなものみつけ!』 1-9, 小学館 (ビッグコミックス)
- 三多摩郷土資料研究会編 (1999) 『地域資料入門』 日本図書館協会 (図書館員選書)
- 椎名仙卓 (1988) 『日本博物館発達史』 雄山閣出版
- ジェイコブズ, ジェイン (2010[1961]) 『アメリカ大都市の死と生』 山形浩生訳, 鹿島出版会
- (2016[1992]) 『市場の倫理 統治の倫理』 香西泰訳, ちくま学芸文庫
- 塩沢由典・玉川英則他編 (2016) 『ジェイン・ジェイコブズの世界 1916-2006』, 藤原書店 (別冊『環』)
- 塩見昇 (2009) 「図書館協議会」, 塩見昇・山口源次郎編著『新図書館法と現代の図書館』

- 日本図書館協会
 —— (2016)『流動化する図書館員』, 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会
 編『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』Ⅷ, C, 日本図書館協会
 式場俊三編 (1977)『式場隆三郎 めぐりあい (人や物や) 私家版』式場聡
 思想の科学研究会編 (1976)『共同研究 集団——サークルの戦後思想史』平凡社
 自治体問題研究所 (2022)『住民と自治』2022年3月号 (特集: 博物館法改正の論点と市
 民と共に歩む公立博物館), 自治体研究社
 指定管理者協会 (2023)『令和5年度提言 指定管理者制度20年の振り返りと未来への提
 言——さらなる指定管理者制度の活用による住民サービスの向上』, https://www.shiteikanri.org/Portals/0/pdf/teigen/R5_teigen.pdf
 品川哲彦 (2020)『倫理学入門——アリストテレスから生殖技術, AIまで』中公新書
 篠藤明德・吉田純夫・小針憲一 (2009)『自治を拓く市民討議会——広がる参画・事例と
 方法』イマジン出版 (COPABOOKS 自治体議会政策学会叢書)
 篠原一 (2004)『市民の政治学——討議デモクラシーとは何か』岩波新書
 篠原一編 (2012)『討議デモクラシーの挑戦——ミニ・パブリックスが拓く新しい政治』
 岩波書店
 澁澤敬三 (1992)『アチック根元記』, 『澁澤敬三著作集 第3巻 犬歩当棒録 東北犬歩当
 棒録』平凡社
 渋谷敬三 (2005)『わが食客は日本——努力の民俗学者宮本常一君のこと』, 佐野眞一
 責任編集『宮本常一——旅する民俗学者』河出書房新社 (KAWADE 道の手帖)
 渋谷望 (2003)『魂の労働——ネオリベリズムの権力論』青土社
 嶋田学 (2021)『瀬戸内市民図書館がめざしたこと』, 青柳英治編著『市民とつくる図書館
 ——参加と協働の視点から』7章, 勉誠出版 (ライブラリーぶっくす)
 —— (2019)『図書館・まち育て・デモクラシー——瀬戸内市民図書館で考えたこと』
 青弓社
 —— (2020)『公募図書館長のリーダーシップ——瀬戸内市民図書館の取り組み』, 永
 田潤子・遠藤尚秀編『公立図書館と都市経営の現在——地域社会の絆・醸成へのチャ
 レンジ』5章, 日本評論社 (都市経営研究叢書)
 清水裕之 (1999)『21世紀の地域劇場——パブリックシアターの理念, 空間, 組織, 運営
 への提案』鹿島出版会
 —— (2022)『公立文化施設の未来を描く——受動の場から提供主体への変貌に向け
 て』水曜社 (文化とまちづくり叢書)
 清水満編著 (1996)『生のための学校 [改訂新版] ——デンマークで生まれたフリースク
 ール「フォルケホイスコーレ」の世界』新評論
 志村和次郎 (2011)『富豪への道と美術コレクション——維新後の事業家・文化人の軌跡』
 ゆまに書房 (ゆまに学芸選書 ULULA)
 市民セクター政策機構 (2021)『季刊社会運動』443 (特集: ワーカーズ・コレクティブ
 ——労働者協同組合法を知る), ほんの木
 柴牟田伸子・フィルムアート社編 (2016)『日本のシビックエコノミー——私たちが小さ
 な経済を生み出す方法』フィルムアート社
 下吹越かおる (2022)『指定管理者制度とNPOにおける図書館運営——14年の月日が教
 えてくれたもの』, 『指定管理者制度の現状と課題——指定管理者制度研究会報告書』

- 東京自治研究センター
 —— (2023)「地域課題としての公共図書館の在り方」,『図書館雑誌』117 (7)・2023年7月号 (特集:図書館の話題アラカルト), 日本図書館協会
 下湯直樹 (2014)「社会教育施設における連携の取り組み——MLA 連携から MULTI 連携へ」,『國學院雑誌 創刊一二〇周年記念』115 (8) (特集:博物館・博物館学の諸問題), 國學院大學
 社会教育行政研究会編 (2013)『社会教育行政読本——「協働」時代の道しるべ』第一法規
 「社会思想史の窓」刊行会編 (1989)『アソシアシオンの想像力——初期社会主義思想への新視角』平凡社
 首都圏文化行政研究会編 (1990)『新編文化行政の手びき』公人社
 シュナイダー, ネイサン (2020[2018])『ネクスト・シェア——ポスト資本主義を生み出す「協同」プラットフォーム』月谷真紀訳, 東洋経済新報社
 シュミット, エノノ山森亮・堅田香緒里・山口純 (2018)『お金のために働く必要がなくなったら, 何をしますか?』光文社新書
 徐有珍 (2011)「日野市立図書館市政図書室における地方行政資料サービス」,『日本図書館情報学会誌』57 (3)
 白井哲哉 (1992)「人文系専門研究分野における博物館論の動向」, 明治大学学芸員養成課程編『Museum study 明治大学学芸員養成課程紀要』3 https://meiji.repo.nii.ac.jp/record/13604/files/museumstudy_3_42.pdf
 —— (1997)「転換期における博物館学」, 明治大学学芸員養成課程編『Museum study 明治大学学芸員養成課程紀要』8 https://meiji.repo.nii.ac.jp/record/13612/files/museumstudy_8_13.pdf
 白戸洋編著 (2010)『公民館で地域がよみがえる——学習の手法による地域づくり 信州・松本からの発信』松本大学出版会
 新藤透 (2019)『図書館の日本史』勉誠出版
 新藤浩伸 (2014)『公会堂と民衆の近代——歴史が演出された舞台空間』東京大学出版会
 —— (2018a)「文化政策論」, 小林真理編『文化政策の現在1——文化政策の思想』6章, 東京大学出版会
 —— (2018b)「社会教育」, 小林真理編『文化政策の現在1——文化政策の思想』12章, 東京大学出版会
 新藤宗幸 (2013)『教育委員会——何が問題か』岩波新書
 末本誠 (2015)「今後の社会教育職員制度の展望——事例を通して」, 日本社会教育学会編『地域を支える人々の学習支援——社会教育関連職員の役割と力量形成』終章, 東洋館出版社
 菅井薫 (2011)『博物館活動における「市民の知」のあり方——「関わり」と「価値」の再構築』学文社
 菅谷明子 (2003)『未来をつくる図書館——ニューヨークからの報告』岩波新書
 菅豊 (2010)「ローカルコモンズという原点回帰——『地域文化コモンズ論』へ向けて」, 山田奨治編『コモンズと文化——文化は誰のものか』東京堂出版
 —— (2013)『「新しい野の学問」の時代へ——知識生産と社会実践をつなぐために』岩波書店

- 祐成保志 (2023)「コミュニティを組織する技術——都市計画とソーシャルワーク」, 成保志・武田俊輔編『コミュニティの社会学』有斐閣
- 鈴木正紀 (2016)「図書館員の専門性」, 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』VI. A, 日本図書館協会
- 鈴木理映子・フィルムアート社編著 (2016)『〈現代演劇〉のレッスン——拡がる場, 越える表現』フィルムアート社
- studio-L 編著 (2015)『コミュニティデザイン プロジェクトガイド 01——地域を越えた小さなプログラムのつくりかた [瀬戸内しまのわ 2014]』ソーシャルデザインラボ
- スタンディング, ガイ (2018[2017])『ベーシックインカムへの道』プレジデント社
- 須藤功 (2022)『宮本常一——人間の生涯は発見の歴史であるべし』ミネルヴァ書房 (ミネルヴァ日本評伝選)
- 数藤雅彦責任編集 (2022)『知識インフラの再設計』勉誠出版 (デジタルアーカイブ・ペーシックス)
- 隅田好美・藤井博志・黒田研二編著 (2018)『よくわかる地域包括ケア』ミネルヴァ書房 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)
- スロスビー, デヴィッド (2002[2000])『文化経済学入門——創造性の探究から都市再生まで』中谷武雄・後藤和子監訳, 日本経済新聞社
- (2014[2010])『文化政策の経済学』後藤和子・阪本崇監訳, ミネルヴァ書房
- 青土社 (2018)『現代思想』2018年12月号 (特集: 図書館の未来)
- (2019)『現代思想』2019年7月号 (特集: 考現学とはなにか——今和次郎から路上観察学, そして〈暮らし〉の時代へ)
- 関直規 (2008)『戦前大都市社会教育施設に関する一考察——東京自治会館を事例として』, 『日本公民館学会年報』5
- 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 (2017)『瀬戸内国際芸術祭 2016 総括報告書』https://setouchi-artfest.jp/seto_system/fileclass/img.php?fid=press_release_mst.20170217195217a6457f2b91cb302fa36db1fae1083e73
- 00 (2014[2011])『シビックエコノミー——世界に学ぶ小さな経済のつくり方』石原薫訳, フィルムアート社
- 全国公民館連合会 (2019)「第40回全国公民館研究集会 東京大会報告 シンポジウム 公民館がひらく日本の未来」, 『月刊公民館』2019年2月, 第一法規
- 全国公立文化施設協会 (2004)『公立文化施設活性化のための運営指針—行政評価・チェックリストによる自己診断と文化施設活性化に向けての一考察』
- (2006)『公立文化施設の活性化についての提言——指定管理者制度の導入を契機として 公立文化施設の活性化に関する研究会報告書』
- (2016)『劇場・音楽堂等地域貢献ハンドブック 2016』(平成27年度文化庁委託事業)
- せんだいメディアテーク編 (2023)『つくる〈公共〉——50のコンセプト』岩波書店
- 曾田修司 (2007)「公立文化施設の公共性をめぐって——「対話の可能性」に, 共同体的価値の形成と参加の保証を見る視点から」, 『文化経済学』5 (3), 文化経済学会
- ソトコト編集部編 (2013)『ソトコト』2013年5月号 (特集: おすすめの図書館), 木楽舎
- (2017)『ソトコト』2017年4月号 (特集: 多様性を育てる社会), 木楽舎

参考文献

- 大正大学地域構想研究所編 (2018)『地域人』33 (特集:こんな図書館のあるまちに住みたい), 大正大学出版会
- (2019)『地域人』42 (特集:図書館とまちづくり), 大正大学出版会
- 高井健司 (2020)「博物館評価の現状と今後——新たな制度の構築に向けて」, 山西良平・佐久間大輔編『日本の博物館のこれからⅡ——博物館の在り方と博物館法を考える』2018～2020年度日本学術振興会科学研究費助成事業研究成果報告書 (1) https://omnh.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=-controlnumber&search_type=2&q=268
- 高崎哲郎 (2010)『評伝石川栄耀——社会に対する愛情,これを都市計画という』鹿島出版会
- 高田みちよ (2018)「高槻の自然がわかるみんなの博物館を目指して あくあびあ芥川——複数NPOによる共同運営の取り組み」, 小川義和・五月女賢司編著『挑戦する博物館——今,博物館がオモシロイ!!』Ⅱ部1章③,ジダイ社
- (2020)「地域の自然・人とともに歩む博物館 [高槻市立自然博物館 (あくあびあ芥川)]」, 金山喜昭編『転換期の博物館経営——指定管理者制度・独立行政法人の検証と展望』2章3, 同成社
- 高萩宏 (2009)『僕と演劇と夢の遊眠社』日本経済新聞出版社
- 高橋樹一郎 (2018)『子ども文庫の100年——子どもと本をつなぐ人びと』みすず書房
- 高橋聡 (2020)「指定管理者からみた行政とのコラボレーション——CCCの運営図書館・5つの特徴と3つの約束」, 永田潤子・遠藤尚秀編『公立図書館と都市経営の現在——地域社会の絆・醸成へのチャレンジ』7章, 日本評論社 (都市経営研究叢書)
- 高橋卓志 (2009)『寺よ, 変われ』岩波新書
- (2018)『さよなら, 仏教——タテマエの僧衣を脱ぎ去って』亜紀書房
- 高見勝利編 (2013)『あたらしい憲法のはなし 他二篇——付 英文対訳日本国憲法』岩波現代文庫
- 高村学人 (2012)『コモンズからの都市再生——地域共同管理と法の新たな役割』ミネルヴァ書房
- 滝口正哉 (2021)「“江戸人”が最も愛したリゾート地。ご開帳, 富くじ, 勧進相撲」, 「東京人」編集部『東京人』2021年1月号 (特集:東京お寺散歩), 都市出版
- 瀧端真理子 (2002)「大阪市立自然史博物館における市民参加の歴史的検討 (1)——大阪市立自然科学博物館時代」, 『博物館学雑誌』27 (2), 全日本博物館学会 https://museology.jp/journal/27-02/27-02_pp01-17.pdf
- (2003)「大阪市立自然史博物館における市民参加の歴史的検討 (2)——長居公園移転以降」, 『博物館学雑誌』28 (2), 全日本博物館学会 https://museology.jp/journal/28-02/28-02_pp01-22.pdf
- 武井浩三 (2019)『管理なしで組織を育てる』大和書房
- 武井浩三・天外伺朗 (2019)『自然経営——ダイヤモンドメディアが開拓した次世代ティール組織』内外出版社
- 竹内潔 (2020)「公立文化会館で育まれる創造性——茨城県小美玉市四季文化館に見る「学び」の姿」, 野田邦弘・小泉元宏・竹内潔・家中茂編著『アートがひらく地域のこれから——クリエイティビティを生かす社会へ』5章, ミネルヴァ書房
- 竹内哲 (2019)『生きるための図書館——一人ひとりのために』岩波新書

- 竹内喜生 (2017) 『宗教法人の公益性』をめぐる研究の現状——公益概念を中心に, 『現代宗教 2017』国際宗教研究所
- (2018) 「宗教法人の公益性」, 西村明責任編集『隠される宗教, 顕れる宗教〈国内編Ⅱ〉』7章, 岩波書店 (今宗教に向きあう)
- 武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明編著 (2020) 『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)
- 竹田青嗣 (1994) 『ニーチェ入門』ちくま新書
- 武久頭也 (2015) 「まちづくり, 人づくりの拠点にしたい 私が新瀬戸内市立図書館を公設公営にした理由」, 『出版ニュース』2376・2015年4月11日号, 出版ニュース社
- 田嶋康利 (2020) 「労働者協同組合法の概要・ポイント・経過」, 『協同の発見』330・2020年5月, 協同総合研究所
- 橘麻紀乃・佐久間大輔 (2009) 「地域の『自然の情報センター』として機能するために」, 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編『「自然史博物館」を変えていく』はじめに, 高陵社書店
- 建畠哲 (2007) 「美術館——緩慢なる市民革命の場 建畠哲インタビュー」『Я (アール) : 金沢 21 世紀美術館 研究紀要』4, 金沢 21 世紀美術館
- 田所祐史 (2014) 「地域社会教育施設の歴史的研究——公民館への継承と断絶」, 明治大学大学院文学研究科博士学位請求論文
- (2019) 「公民館構想以前の寺中作雄」, 『月刊社会教育』2019年11月号, 旬報社
- (2021) 「社会教育施設希求の動き」, 大串隆吉・田所祐史『日本社会教育史』1部3章, 有信堂高文社
- 田中あずさ (2017) 『サブジェクト・ライブラリアン——海の向こうアメリカの学術図書館の仕事』笠間書院
- 田中浩也・門田和雄編著 (2013) 『FAB に何が可能か——「つくりながら生きる」21 世紀の野生の思考』フィルムアート社
- 田中正人 (2015) 『哲学用語図鑑』プレジデント社
- 田中元子 (2017) 『マイパブリックとグランドレベル——今日からはじめるまちづくり』晶文社
- (2022) 『1 階革命——私設公民館「喫茶ランドリー」とまちづくり』晶文社
- 田中優 (2017) 『幸せを届けるボランティア 不幸を招くボランティア』河出文庫
- 田中優子 (1992) 『江戸の想像力——18 世紀のメディアと表徴』ちくま学芸文庫
- (2008) 『江戸はネットワーク』平凡社ライブラリー
- (2020) 『江戸のダイバーシティ』池上英子・田中優子『江戸とアバター——私たちの内なるダイバーシティ』3章, 朝日新書
- 棚橋源太郎 (1932) 『郷土博物館』刀江書院
- 田辺茂一 (2014) 『わが町・新宿』紀伊國屋書店
- 谷正次 (2006) 『『まっふ福祉未来 21 プラン』の策定プロセスとその内容——みんなでやらこい福祉でまちづくり』, 上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編著『松江市の地域福祉計画——住民の主体形成とコミュニティソーシャルワークの展開』第6章, ミネルヴァ書房
- 谷一文子 (2019) 『これからの図書館——まちとひとが豊かになるしかけ』平凡社
- 谷川彰英 (1988) 『柳田国男と社会科教育』三省堂選書

参考文献

- 田畑稔 (2015)『増補新版 マルクスとアソシエーション——マルクス再読の試み』新泉社
- 田畑稔・大藪龍介・白川真澄・松田博編著 (2003)『アソシエーション革命へ——理論・構想・実践』社会評論社
- 田村明・森啓編 (1983)『文化行政とまちづくり』時事通信社
- たんぽぽの家編 (2016)『ソーシャルアート——障害のある人とアートで社会を変える』学芸出版社
- 地域サポートわかさ (2018)『人が集まりたくなる場のつくり方とそだて方——わかさ式 公民館づくりの心得』
- (2020)『パーラー公民館の3年間——2017-2019』<https://cs-wakasa.com/pdf/parlor2017-2019.pdf>
- (2022)『ワークブック「アート×社会教育」』https://cs-wakasa.com/program/wp-content/uploads/2022/02/workbook2022_wakasa.pdf
- 地域創造 (2007)『公立文化施設における政策評価等のあり方に関する調査研究 公立ホール・公立劇場の評価指針』
- (2014)『災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究報告書——文化的コモンズの形成に向けて』
- (2016)『地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究報告書——文化的コモンズが、新時代の地域を創造する』
- (2022)「座談会 それぞれの20年」,『地域創造』48・2022 冬号
- 千地万造 (1994)『博物館の楽しみ方』講談社現代新書
- ちばおさむ・伊藤紀子・松島茂 (1993)『図書館の集会・文化活動』日本図書館協会(図書館員選書)
- チャントレル, グリニス編 (2015[2002])『オックスフォード 英単語由来大辞典』澤田治美監訳, 終風舎
- 月尾嘉男・北原理雄 (1980)『実現されたユートピア』鹿島出版会
- 辻浩 (2003)『住民参加型福祉と生涯学習——福祉のまちづくりへの主体形成を求めて』ミネルヴァ書房
- 辻浩・細山俊男・石井山竜平編 (2023)『地方自治の未来をひらく社会教育』社会教育・生涯学習研究所監修, 自治体研究社
- 津田大介・平田オリザ (2021)『ニッポンの芸術のゆくえ——なぜ、アートは分断を生むのか?』青幻舎
- 土屋典子 (2017)「地域とともにある施設になるためには 茨城県小美玉市 四季文化館みのれ・小川文化センターアビオス・生涯学習センターコスモス」, 文化科学研究所編『平成28年度 劇場・音楽堂等 広報&コミュニケーション ハンドブック』(文化庁委託事業)
- 鶴幸一郎・藤田孝典・石川久展・高端正幸 (2019)『福祉は誰のために——ソーシャルワークの未来図』へるす出版新書
- 鶴見俊輔 (1962)『戦後からの評価』, 中井正一『美と集団の論理』久野収編, 中央公論社
- (1999)『限界芸術論』ちくま学芸文庫
- 鶴見太郎 (2019)『柳田國男——感じたるまゝ』ミネルヴァ書房(ミネルヴァ日本評伝選)
- 手打明敏・上田孝典編著 (2017)『〈つながり〉の社会教育・生涯学習: ——持続可能な社

- 会を支える学び』東洋館出版社
- デバレ, アンドレ (2022[2011]) 「新・博物館学」, メレス, フランソワ／デバレ, アン
ドレ編『博物館学・美術館学・文化遺産学 基礎概念事典』I部2章, 水島英治訳,
東京堂出版
- 寺中作雄 (1995) 『社会教育法解説／公民館の建設』国土社 (現代教育 101 選)
- 暉峻淑子 (2012) 『社会人の生き方』岩波新書
- (2017) 『対話する社会へ』岩波新書
- 土井初音 (2013) 「人々の理想郷」, 福森伸編『しょうぶ学園 40 周年記念誌 創ってきた
こと, 創っていくこと——ここには屈託のない笑いがある。』太陽会
- 「東京人」編集部 (2021) 『東京人』2021 年 1 月号 (特集: 東京お寺散歩), 都市出版
- 東京都 (東京都公文書館) (2021) 『都史資料集成 II 4 巻 焦土からの復興——戦災復興か
ら首都建設へ』
- 東京都公園協会編 (2014) 『井下清と東京の公園——緑に生涯をかけた彼の哲学』(みどりの
i プラザ企画展コンテンツブックシリーズ)
- 東京都渋谷公園通りギャラリー (2022) 『Museum of Mom's Art ニッポン国おかんアー
ト村』(展覧会カタログ)
- 東京の図書館をもっとよくする会 (2018) 『“ツタヤ図書館”を追って見えたこと——多
賀城市立図書館を中心に』(東京の図書館双書)
- 東京文化資源会議編 (2016) 『TOKYO1/4 が提案する東京文化資源区の歩き方——江戸文
化からポップカルチャーまで』勉誠出版
- 東郷尚武 (1993) 「戦災復興の礎を築いた石川栄耀」, 『東京人』編集室編『江戸・東京を
造った人々——都市のプランナーたち』都市出版
- 東條文規 (1999) 『図書館の近代——私論・図書館はこうして大きくなった』ポット出版
- (2021) 『図書館にドン・キホーテがいた頃——1980～90 年代の図書館少数者運
動』ポット出版プラス
- 東成学園 (2018) 『イングランド及びスコットランドにおける文化芸術活動に対する助成
システム等に関する実態調査報告書』日本芸術文化振興会
- トクヴィル, アレクシ・ド (2008[1840]) 『アメリカのデモクラシー 第二巻 (上)』松本
礼二訳, 岩波文庫
- 徳永功 (2021) 『個の自立と地域の民主主義をめざして——徳永功の社会教育』エィデル
研究所
- 徳永高志 (1999) 『芝居小屋の二十世紀』雄山閣出版
- (2000) 『劇場と演劇の文化経済学』芙蓉書房出版 (文化経済学ライブラリー)
- (2010) 『公共文化施設の歴史と展望』晃洋書房
- (2016) 「公共劇場としての内子座」, 『内子座』編集委員会編著『内子座——地域
が支える町の劇場の 100 年』論考 2, 学芸出版社
- 徳村杜紀子 (1962) 「私の父」, 中井正一, 久野収編『美と集団の論理』付録, 中央公論
社
- 図書館総合研究所編 (2007) 『市場化の時代を生き抜く図書館——指定管理者制度による
図書館経営とその評価』高山正也・南学監修, 時事通信出版局
- 図書館問題研究会 (1981) 「〈資料〉図書館事業の振興方策について (第一次報告)」, 『み
んなの図書館』1981 年 11 月号

- 戸部良一（2012）『逆説の軍隊』中公文庫（シリーズ日本の近代）
- 富田武（2022）『抑留を生きる力——シベリア捕虜の内面世界』朝日選書
- トムソン、マイク（2019[2019]）『戦場の秘密図書館——シリアに残された希望』小国綾子編訳、文溪堂
- 友岡邦之（2018）『地域・コミュニティ』、小林真理編『文化政策の現在1——文化政策の思想』15章、東京大学出版会
- 豊田恭子（2017）『全米の図書館に広がるメイカースペースの威力』、情報科学技術協会『情報の技術と科学』67（10）
- （2022）『開く図書館——アメリカのライブラリアンシップ』筑摩選書
- ドラッカー、P・F（1991[1990]）『非営利組織の経営——原理と実践』上田惇生・田代正美訳、ダイヤモンド社
- 中井正一（1962）『美と集団の論理』久野収編、中央公論社
- （1972）『論理とその実践——組織論から図書館像へ』中井浩編、てんびん社
- （1973）『アフォーリズム』富岡益五郎編、てんびん社
- （1981）『中井正一全集4 文化と集団の論理』久野収編、美術出版社
- （1995）『中井正一評論集』長田弘編、岩波文庫
- 中川幾郎（2009）『公立文化ホールマネジメント』、小林真理・片山泰輔監修・編『アーツ・マネジメント概論 三訂版』7章3、水曜社（文化とまちづくり叢書）
- 中川幾郎・松本茂明編著（2007）『指定管理者は今どうなっているのか』水曜社
- 長尾宗典（2023）『帝国図書館——近代日本の「知」の物語』中公新書
- 中島純（2010）『東京自治会館』、後藤新平歿八十周年記念事業実行委員会編『都市デザイン シリーズ後藤新平とは何か 自治・公共・共生・平和』藤原書店
- 中島直人・西成典久・初田香成・佐野浩祥・津々見崇（2009）『都市計画家 石川栄耀——都市探究の軌跡』鹿島出版会
- 中島直人・一般社団法人アーバニスト（2021）『アーバニスト——魅力ある都市の創生者たち』ちくま新書
- 永田潤子・遠藤尚秀編（2020）『公立図書館と都市経営の現在——地域社会の絆・醸成へのチャレンジ』日本評論社（都市経営研究叢書）
- 永田治樹（2021）『公共図書館を育てる』青弓社
- （2023）『図書館員に今後求められる知識とスキル』、未来の図書館研究所編『図書館員の未来カリキュラム』序章、青弓社
- 長塚隆（2018）『挑戦する公共図書館——デジタル化が加速する世界の図書館とこれからの日本』日外アソシエーツ
- 長浜功（1991）『伊藤寿朗君のこと』、『教育学研究年報』10、東京学芸大学教育学科
- （1995a）『彷徨のまなざし——宮本常一の旅と学問』明石書店
- （1995b）『日本民衆の文化と実像——宮本常一の世界』明石書店
- 長濱一眞（2020）『近代のはずみ、ひずみ——深田康算と中井正一』航思社
- 仲正昌樹（2009）『今こそアーレントを読み直す』講談社現代新書
- （2016）『ハンナ・アーレント「革命について」入門講義』作品社
- （2018）『悪と全体主義——ハンナ・アーレントから考える』NHK 出版新書
- （2020）『マルクス入門講義』作品社
- 中村真一郎（2000）『木村兼葎堂のサロン』新潮社

- 中村文孝・小田光雄（2022）『私たちが図書館について知っている二、三の事柄』論創社
- 中村勝（2019）『キネマ／新聞／カフェー——大部屋俳優・斎藤雷太郎と『土曜日』の時代』井上史編，ヘウレーカ
- 中村美帆（2021）『文化的に生きる権利——文化政策研究からみた憲法第二十五条の可能性』春風社
- 中山敦雄（2007）『ボランティア社会の誕生——欺瞞を感じるからくり』三重大学出版会
- 中山智香子（2020）『経済学の墮落を撃つ——「自由」vs「正義」の経済思想史』講談社現代新書
- 名古屋忠行（2004）『ウィリアム・モリス』研究社（イギリス思想叢書）
- 夏目琢史（2009）『アジールの日本史』同成社
- 浪江虔（1996）『図書館そして民主主義——浪江虔論文集』まちな自治研究センター編，ドメス出版
- 南島和久（2020）『政策評価の行政学——制度運用の理論と分析』晃洋書房（ガバナンスと評価）
- 西智弘編著（2020）『社会的処方——孤立という病を地域のつながりで治す方法』学芸出版社
- 西智弘・守本陽一・藤岡聡子（2020）『ケアとまちづくり，ときどきアート』中外医学社
- 西河内靖泰（2011）『知をひらく——「図書館の自由」を求めて』青灯社
- （2021）「司書・図書館職員——図書館の人的資源」，『月刊社会教育』2021年5月号（特集：社会教育職員はいま），旬報社
- 西川開（2023）『知識コモンズとは何か——パブリックドメインからコミュニティ・ガバナンスへ』勁草書房
- 西澤真樹子（2018）「なにわホネホネ団と東北遠征団——博物館で楽しみ，博物館を支え，博物館をとび出す市民サークル」，小川義和・五月女賢司編著『挑戦する博物館——今，博物館がオモシロイ!!』Ⅱ部1章⑥，ジダイ社
- （2024）「NPO法人が支える博物館コミュニティ——大阪自然史センター22年の歴史と舞台裏」，『BIOCITY』97（特集：自然史博物館が拓く新時代——自然と人をつなぐために），ブックエンド
- 西出順郎（2020）『政策はなぜ検証できないのか—政策評価制度の研究』勁草書房
- 西堂行人（2020）『日本演劇思想史講義』論創社
- ニーチェ，フリードリヒ（2010[1883-84]）『ツァラトゥストラ（上）』丘沢静也訳，光文社古典新訳文庫
- 仁平典宏（2011）『「ボランティア」の誕生と終焉——〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』名古屋大学出版会
- 日本史広辞典編集委員会編（1997）『日本史広辞典』山川出版社
- 日本社会教育学会編（2018）『社会教育職員養成と研修の新たな展望 日本の社会教育第62集』東洋館出版社
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『社会福祉の原理と政策』中央法規出版（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座）
- （2021）『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座）
- 日本図書館協会編（1963）『中小都市における公共図書館の運営——中小公共図書館運営

参考文献

- 基準委員会報告』日本図書館協会
——（1970）『市民の図書館』日本図書館協会
日本図書館協会図書館員の問題調査研究委員会編（2002）『「図書館員の倫理綱領」解説』
日本図書館協会
日本図書館協会図書館政策特別委員会編（2009）『公立図書館の任務と目標 解説 改訂版
増補』日本図書館協会
日本図書館情報学会研究委員会編（2003）『図書館の経営評価——パフォーマンス指標に
よる新たな図書館評価の可能性』勉誠出版（シリーズ図書館情報学のフロンティア）
——（2008）『変革の時代の公共図書館——そのあり方と展望』勉誠出版（シリーズ図
書館情報学のフロンティア）
日本博物館協会（2001）『「対話と連携」の博物館——理解への対話・行動への連携【市
民とともに創る新時代博物館】』
——（2011）『平成22年度文部科学省委託事業 生涯学習施策に関する調査研究 博物館
倫理規程に関する調査研究報告書』
日本博物館協会編（2004）『使命・計画作成の手引き』日本博物館協会
日本博物館協会編（2010）『平成21年度文部科学省委託事業 図書館・博物館における知
の拠点推進事業 博物館倫理規程に関する調査研究報告書』日本博物館協会
日本労働者協同組合連合会編（2022）『「必要」から始める仕事おこし——「協同労働」
の可能性』岩波ブックレット
根本昭（2002）『芸術文化政策Ⅱ 政策形成とマネジメント』放送大学教育振興会
——（2010）『文化政策学入門』水曜社（文化とまちづくり叢書）
根本昭・枝川明敬・垣内恵美子・笹井宏益（1997）『文化会館通論』晃洋書房
根本昭・佐藤良子（2013）『公共ホールと劇場・音楽堂法——文化政策の法的基盤Ⅱ』水
曜社（文化とまちづくり叢書）
ネグリ、アントニオ／ハート、マイケル（2022[2017]）『アセンブリ——新たな民主主義
の編成』水嶋一憲・佐藤嘉幸・箱田徹・飯村祥之訳、岩波書店
根本彰（1999）『地域資料サービスの意義』三多摩郷土資料研究会編『地域資料入門』
日本図書館協会（図書館員選書）
——（2006）『図書館員養成と大学教育——研究と現場の関係を踏まえながら』日本図
書館情報学会研究委員会編『図書館情報専門職のあり方とその養成』勉誠出版（シリ
ーズ図書館情報学のフロンティア）
——（2011a）『理想の図書館とは何か——知の公共性をめぐって』ミネルヴァ書房
——（2011b）『図書館、博物館、文書館——その共通基盤と差異』石川徹也・根本
彰・吉見俊哉編『つながる図書館・博物館・文書館——デジタル化時代の知の基盤づ
くりへ』序章、東京大学出版会
——（2021a）『アーカイブの思想——言葉を知に変える仕組み』みすず書房
——（2021b）『図書館の地域アーカイブ活動のために』蛭田廣一編『地域資料のアー
カイブ戦略』7章、日本図書館協会（JLA 図書館実践シリーズ）
ネルソン、ヴォーランダ・ミシヨ（2015[2012]）『ハーレムの闘う本屋——ルイス・ミシ
ヨの生涯』原田勝訳、あすなろ書房
野口雅弘（2018）『付度と官僚制の政治学』青土社
野原海明（2017）『図書館の指定管理者制度を問い直す〔序論〕』、『ライブラリー・リソー

- ス・ガイド』19・2017年春号, アカデミック・リソース・ガイド
- 野村恭彦 (2021)『フューチャーセンターをつくろう——対話をイノベーションにつなげる仕組み』プレジデント社
- 野村路子 (2011)『フリードル先生とテレジンの子どもたち——ナチス収容所にのこされた4000枚の絵』第三文明社 (21C文庫)
- ハイルブローナー, ロバート・L (2001[1953])「ソースタイン・ヴェブレンの描く野蛮な世界」, 『入門経済思想史——世俗的思想家たち』8章, 八木甫・松原隆一郎・浮田聡・奥井智之・堀岡治男訳, ちくま学芸文庫
- ハイン, ローラ (2023[2018])『ポスト・ファシズムの日本——戦後鎌倉の政治文化』中野耕太郎・奥田博子訳, 人文書院
- バウマン, ジグムント (2021[1989])『近代とホロコースト 完全版』森田典正訳, ちくま学芸文庫
- 芳賀徹 (2019)『桃源の水脈——東アジア詩画の比較文化史』名古屋大学出版会
- 橋爪大三郎 (1989)『冒険としての社会科学』毎日新聞社 (知における冒険シリーズ)
- (1995)『橋爪大三郎の社会学講義』夏目書房
- 橋本努 (2008)『経済倫理=あなたは、なに主義?』講談社選書メチエ
- (2019)『解説 ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』』講談社選書メチエ
- バーゾル, ウィリアム・F (1996[1994])『電子図書館の神話』根本彰・山本順一・二村健・平井歩実訳, 勁草書房
- 秦卓民 (2019)『奇跡の組織——「最高の働き方」を導き出すセムコストスタイル5つの原則』光文社
- 馬頭忠治 (2013)『アソシエーションとマネジメント——経営学再考』ラゲーナ出版
- 服部正 (2003)『アウトサイダー・アート——現代美術が忘れた「芸術」』光文社新書
- 服部正編著 (2016)『障がいのある人の創作活動——実践の現場から』あいり出版
- 服部正・藤原貞朗 (2014)『山下清と昭和の美術——「裸の大将」の神話を超えて』名古屋大学出版会
- 馬場俊明 (2009)『中井正一伝説——二十一の肖像による誘惑』ポット出版
- (2023)『「読書の自由」を奪うのは誰か——「自由宣言」と蔵書選択』青弓社
- ハーバーマス, ユルゲン (1994[1990])『公共性の構造転換——市民社会の一カテゴリーについての探究 第2版』, 細谷貞雄・山田正行訳, 未来社
- 羽村太雅 (2023)『ないのなら作ってしまえ科学館——手作り科学館 Exedra 5年間のキセキ』, 日本科学者会議編『日本の科学者』2023年1月号 (特集: 市民のための科学コミュニケーション) 談話室, 本の泉社
- ハメル, ゲイリー・ザニーニ, ミケーレ (2023[2020])『ヒューマノクラシー——「人」が中心の組織をつくる』東方雅美訳, 英治出版
- 林修 (2006)『番組小学校の誕生とその後の歴史——学校設立の経緯とその歴史的意義』, 京都市教育委員会・京都市学校歴史博物館編『京都学校物語』京都通信社
- 林浩二 (2017)『地域のESDと博物館・図書館・公民館の連携』, 『社会教育』72 (11) (特集: 観光と社会教育), 日本青年館「社会教育」編集部
- 林幸子編著 (2021)『改訂新装版 テレジンの子どもたちから——ナチスに隠れて出された雑誌『VEDEM』より』新評論

- 林廣茂 (2019) 『日本経営哲学史——特殊性と普遍性の統合』 ちくま新書
- 林道明 (1981) 「民具の博物館・小木町」, 松下圭一・森啓編著『文化行政——行政の自己革新』 IV-5, 学陽書房
- 樋口範雄 (1999) 『フィデュシャリー「信託」の時代——信託と契約』 有斐閣
- 久井英輔 (2019) 『近代日本の生活改善運動と〈中流〉の変容』 学文社
- 久本和明 (2021) 『僕たちはみんなで会社を経営することにした』 クロスメディア・パブリッシング
- 日野市立図書館 (2016) 『本の力図書館の力を信じて——日野市立図書館開設五十周年記念誌』
- 日比野秀男 (1994) 『美術館学芸員という仕事』 ペリカン社
- 平尾昌宏 (2019) 『ふだんづかいの倫理学』 晶文社 (犀の教室 Liberal Arts Lab)
- 平賀研也 (2016) 「PROPOSAL これからの図書館のイメージ・ビジョン Library 3.0——明日をつくる多様な知のコモンズ (共有地) としての図書館を構想する (私論)」, 『社会教育』 72 (11), 日本青年館「社会教育」編集部
- 平田栄一朗 (2010) 『ドラマトゥルク——舞台芸術を進化/深化させる者』 三元社
- 平田オリザ (2001) 『芸術立国論』 集英社新書
- (2013a) 『地図を創る旅——青年団と私の履歴書』 白水社 ユブックス
- (2013b) 『新しい広場をつくる——市民芸術概論綱要』 岩波書店
- 平野啓一郎 (2012) 『私とは何か——「個人」から「分人」へ』 講談社現代新書
- 平野美恵子 (2008) 「公共図書館の設置・運営に関する法的基盤」, 国立国会図書館編『米国の図書館事情 2007——2006 年度国立国会図書館調査研究報告書 (図書館研究シリーズ No.40)』 1 章 1・2・1, 日本図書館協会 <https://current.ndl.go.jp/wp-content/uploads/mig/series/no40/lss40.pdf>
- 蛭田廣一 (2019) 『地域資料サービスの実践』 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- (2021b) 『地域資料のアーカイブ戦略』 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- (2023) 『地域資料サービスの実践 補訂版』 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- 蛭田廣一編 (2021a) 『地域資料サービスの展開』 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- 広井良典 (2001) 『定常型社会——新しい「豊かさ」の構想』 岩波新書
- (2006) 『持続可能な福祉社会——「もうひとつの日本」の構想』 ちくま新書
- 広井良典編著 (2011) 『協同で仕事をおこす』 コモンズ
- 広島市現代美術館監修 (2013) 『路上と観察をめぐる表現史——考現学の「現在」』 フィルムアート社
- 廣田ふみ・鹿島萌子編 (2023) 『だれもが文化でつながる国際会議: Creative Well-being Tokyo 2022 報告書』 東京都歴史文化財団 https://creativewell.rekibun.or.jp/uploads/CWT_Report_Low.pdf
- 日向咲嗣 (2018) 「“ツタヤ図書館”を追って見えたこと——多賀城市立図書館を中心に」, 東京の図書館をもっとよくする会『“ツタヤ図書館”を追って見えたこと／ツタヤ図書館見聞録』 (東京の図書館双書)
- 樋渡啓祐 (2014) 『沸騰! 図書館——100 万人が訪れた驚きのハコモノ』 角川 one テーマ

- ピンク, ダニエル (2006[2005])『ハイ・コンセプト——「新しいこと」を考え出す人の時代』大前研一訳, 三笠書房
- ヒンディ, ニール (2018)『世界のビジネスリーダーがいまアートから学んでいること』小巻靖子訳, クロスメディア・パブリッシング (インプレス)
- フェルメール, アストリッド/ウェンティン, ベン (2020[2018])『自主経営組織のはじめ方——現場で決めるチームをつくる』嘉村賢州・吉原史郎訳, 英治出版
- 福島幸宏 (2011)「地域拠点の形成と意義——デジタル文化資源の『資源』はどう調達されるのか?」, 知的資源イニシアティブ編『デジタル文化資源の活用——地域の記憶とアーカイブ』3部, 勉誠出版
- (2012)「第261会 MALUI (まるい) 連携という提案 (INFOSTA Forum)」, 『情報の科学と技術』62 (9), 情報科学技術協会 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/62/9/62_KJ00008195744/_pdf/-char/ja
- 福住廉 (2008)『今日の限界芸術』BankART1929
- 福田珠己 (2011)「棚橋源太郎の博物館論と郷土の具体化」『空間・社会・地理思想』14, 九州大学大学院人文科学研究院地理学講座
- 福田晴子 (2022)『宮本常一の旅学——観文研の旅人たち』宮本千晴監修, 八坂書房
- 福地潮人 (1999)「現代ガヴァナンスとアソシエーション——アソシエーティヴ・デモクラシーの議論を中心に」, 『立命館産業社会論集』35 (3) <https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/236359/www.ritsumeit.ac.jp/kic/so/sansharonshu/353pdf/fukuti.pdf>
- (2001)「ポール・ハーストの経済および社会福祉ガバナンス・モデルに関する一考察——アソシエーティヴ・デモクラシーの可能性を求めて」, 『立命館産業社会論集』37 (2) https://www.ritsumeit.ac.jp/ss/sansharonshu/assets/file/2001/37-2_fukuti.pdf
- 福間浩 (2006)「公民館活動と地区社協活動にみる住民の主体形成」, 上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編著『松江市の地域福祉計画——住民の主体形成とコミュニティソーシャルワークの展開』第10章, ミネルヴァ書房
- 福森悦子 (2013)「ごあいさつ 光陰矢の如し」, 福森伸編『しょうぶ学園40周年記念誌 創ってきたこと, 創っていくこと——ここには屈託のない笑いがある。』太陽会しょうぶ学園
- 福森伸編 (2013)『しょうぶ学園40周年記念誌 創ってきたこと, 創っていくこと——ここには屈託のない笑いがある。』太陽会しょうぶ学園
- (2019)『ありのままがあるところ』晶文社
- (2023)『しょうぶ学園50周年記念誌 両手を180度まで広げてみる——つまり, 不完全であるということが人間らしさの根源だとすれば変化こそテーマになるのだ。』太陽会しょうぶ学園
- 藤井隆至 (1995)『柳田國男 経世済民の学——経済・倫理・教育』名古屋大学出版会
- 藤垣裕子 (2018)『科学者の社会的責任』岩波科学ライブラリー
- 藤田省三 (1997)『維新の精神 藤田省三著作集4』みすず書房
- 藤野一夫 (2022)『みんなの文化政策講義——文化的コモンズをつくるために』水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- (2023)「文化芸術とガバメント——その歴史と理念」, 『都市問題』114・2023年

参考文献

- 8月号(特集2:文化芸術とガバメント), 後藤・安田記念東京都市研究所
藤野一夫/文化・芸術を活かしたまちづくり研究会編著(2020)『基礎自治体の文化政策
——まちにアートが必要なわけ』水曜社(文化とまちづくり叢書)
藤井素彦編・構成(2021)『式場隆三郎[脳室反射鏡]展図録』新潟市美術館・広島市現
代美術館・練馬区立美術館
ふじたまさえ責任編集(2018)『ライブラリー・リソース・ガイド』22・2018冬号(特
集:図書館とコミュニティ), アカデミック・リソース・ガイド
藤原書店(2008)『図書館・アーカイブズとは何か』(別冊「環」)
ブッシュマン, ジョン・E(2007[2003])『民主的な公共圏としての図書館——新公共哲
学の時代に司書職を位置づけ持続させる』川崎良孝訳, 京都図書館情報学研究会
ブライス, ジェームズ(1929[1921])『近代民主政治 第一巻』松山武訳, 岩波文庫
ブラウニング, R・クリストファー(2019[2017])『増補 普通の人びと——ホロコースト
と第101警察予備大隊』谷喬夫訳, ちくま学芸文庫
ブラック, アリステア/マディン, デーブ(2004[1997])『コミュニティのための図書
館』根本彰・三浦太郎訳, 東京大学出版会
ブラウー, ウィリアム(2013)「新しょうぶ学園デザインコンセプト」, 福森伸編『しょう
ぶ学園40周年記念誌 創ってきたこと, 創っていくこと——ここには屈託のない笑
いがある。』太陽会しょうぶ学園
ブリアー, ジーン・L(2011[2008])『図書館倫理——サービス・アクセス・関心の対
立・秘密性』川崎良孝・久野和子・桑原千幸・福井祐介訳, 京都図書館情報学研究会
ブルデュー, ピエール(1990a[1984])『ディスタンクシオンⅠ』石井洋二郎訳, 藤原書
店
——(1990b[1984])『ディスタンクシオンⅡ』石井洋二郎訳, 藤原書店
ブルデュー, ピエール/ダルベル, アラン/シュナッペー, ドミニク(1994[1969])『美
術愛好——ヨーロッパの美術館と観衆』山下雅之訳, 木鐸社
ブルードン, ピエール・ジョゼフ(2009)『ブルードン・セレクション』河野健二編, 阪
上孝訳, 平凡社ライブラリー
古山明男(2006)『変えよう! 日本の学校システム——教育に競争はいらない』平凡社
ブレグマン, ルドガー(2017[2017])『隷属なき道——AIとの競争に勝つベーシックイ
ンカムと一日三時間労働』野中香方子訳, 文藝春秋
フロリダ, リチャード(2008[2002])『クリエイティブ資本論——新たな経済階級の台
頭』井口典夫訳, ダイアモンド社
——(2014[2012])『新クリエイティブ資本論——才能が経済と都市の主役となる』井
口典夫訳, ダイアモンド社
文化科学研究所編(2017)「座談会 ダンス事業を考える」, 『地域創造』42, 地域創造
文化環境研究所(2013)『Cultivate』41(特集:公共インフラの産業化)
ペストフ, ピクター・A(2000[1998])『福祉社会と市民民主主義——協同組合と社会的
企業の役割』藤田暁男・川口清史他訳, 日本経済評論社
星野哲(2018)『「定年後」はお寺が居場所』集英社新書
ポーター, セオドア・M(2013[1995])『数値と客観性——科学と社会における信頼の獲
得』藤垣裕子訳, みすず書房
ホフマン, シュテファン/ルートヴィヒ(2009[2006])『市民結社と民主主義 1750-1914』

- 山本秀行訳, 岩波書店 (ヨーロッパ史入門)
- 堀雅晴 (2014) 「マルクスとガバナンス論 (1) ——アソシエーション論への包摂にむけて」, 『立命館法学』356, 立命館大学法学会 <https://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/14-4/hori.pdf>
- ホールデン, ジョン (2013) 「民主主義社会における文化の価値」, 福原義春編『地域に生きたミュージアム 100 人で語るミュージアムの未来Ⅱ』現代企画室
- 本多一夫・徳永京子 (2018) 『「演劇の街」をつくった男——本多一夫と下北沢』ぴあ
- 本と人をつなぐ「そらまめの会」編著 (2011) 『私たち図書館やっています! ——指定管理者制度の波を越えて』南方新社
- 本間洋一 (2015) 「楽しみながら, “まず, やってみる” から始めよう——北海道・恵庭まちじゅう図書館」, まちライブラリー マイクロ・ライブラリーサミット実行委員会 2014 編『マイクロ・ライブラリー——人とまちをつなぐ小さな図書館』学芸出版社
- 前川恒雄 (1987) 『われらの図書館』筑摩書房
- (1999) 『人間の図書館へ 前川恒雄著作集 4』出版ニュース社
- 前川恒雄・石井敦 (2006) 『新版 図書館の発見』NHK ブックス
- 前田英寿 (2018) 「アーバンデザインセンター」, 前田英寿・遠藤新・野原卓・阿部大輔・黒瀬武史『アーバンデザイン講座』15 講, 彰国社
- 牧慎一郎 (2020) 「大阪市における動物園の経営形態に関する議論」, 金山喜昭編『転換期の博物館経営——指定管理者制度・独立行政法人の検証と展望』6 章 4, 同成社
- 牧田東一編著 (2007) 『プログラム・オフィサー——助成金配分と社会的価値の創出』編集工房球
- 牧野篤 (2012) 「住民自治組織の再編と公民館の役割——長野県飯田市の改革を一例に」, 『人が生きる社会と生涯学習——弱くある私たちが結びつくこと』6 章, 大学教育出版
- (2017) 『「つくる生活」が面白い——小さなことから始める地域おこし, まちづくり』さくら舎
- (2018) 『公民館はどう語られてきたのか——小さな社会をたくさんつくる 1』東京大学出版会
- (2019) 『公民館をどう実践してゆくのか——小さな社会をたくさんつくる 2』東京大学出版会
- 牧野雅彦 (2018) 『アレント『革命について』を読む』法政大学出版局
- (2023) 『権力について——ハンナ・アレントと「政治の文法」』中公選書
- 牧野和香 (2005) 『凡夫の民藝論』惜水社
- 増村岳史 (2018) 『ビジネスの限界はアートで超える!』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 町田洋次 (2000) 『社会起業家——「よい社会」をつくる人たち』PHP 新書
- まちライブラリー マイクロ・ライブラリーサミット実行委員会 2014 編 (2015) 『マイクロ・ライブラリー——人とまちをつなぐ小さな図書館』学芸出版社
- 松井健太郎 (2013) 「あなたのまちにも!? どこだって, 図書館に变身!」, 『ソトコト』2013 年 5 月号 (特集: おすすめの図書館 長居したくなる! ソーシャルな図書館の大集合!), 木楽舎
- 松浦正敬 (2006) 「地方分権・地方自治と地域福祉活 (活動) 計画——行政と住民との協

参考文献

- 働と自治」, 上野谷加代子・杉崎千洋・松端克文編著『松江市の地域福祉計画——住民の主体形成とコミュニティソーシャルワークの展開』第2章, ミネルヴァ書房
- 松尾匡 (2001)『近代の復権——マルスの近代観から見た現代資本主義とアソシエーション』晃洋書房
- (2008)『「はだかの王様」の経済学——現代人のためのマルクス再入門』東洋経済新報社
- (2009)『商人道ノスヘメ』藤原書店
- (2014)『ケインズの逆襲, ハイエクの慧眼——巨人たちは経済政策の混迷を解く鍵をすでに知っていた』PHP 新書
- (2016)『自由のジレンマを解く——グローバル時代を守るべき価値とは何か』PHP 新書
- 松岡要 (2016a)「人事制度」, 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』VI, B, 日本図書館協会
- (2016b)「労働」, 日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』VI, C, 日本図書館協会
- 松岡享子 (2015)『子どもと本』岩波新書
- 松岡義和 (1981)「中井正一君と消費組合運動」, 久野収編『中井正一全集4 文化と集団の論理』付録, 美術出版社
- マッキーヴァー, R・M (2009[1917])「コミュニティとアソシエーション」, 『コミュニティ——社会学的研究: 社会生活の性質と基本法則に関する一試論』第2章, 中久郎・松本通晴他訳, ミネルヴァ書房
- 松崎行代 (2019)『地域社会からみた人形劇フェスタ——飯田市民2500人が参加する背景を探る』晃洋書房
- 松沢裕作 (2016)『自由民権運動——〈デモクラシー〉の夢と挫折』岩波新書
- 松下圭一 (1985)『市民文化は可能か』岩波書店 (現代都市政策叢書)
- (1991)『政策型思考と政治』東京大学出版会
- (2003a)『社会教育の終焉 [新版]』公人の友社
- (2003b)『市民文化と自治体文化戦略—文化の座標軸と都市型社会』公人の友社 (地方自治ジャーナルブックレット)
- (2006)『現代政治*発想と回想』法政大学出版局
- (2010)『自治体改革*歴史と対話』法政大学出版局
- 松下圭一・森啓編著 (1981)『文化行政——行政の自己革新』学陽書房
- 松下圭一・森啓 (1991)「文化ホールと自治体の文化戦略」, 森啓編著『文化ホールがまちをつくる』学陽書房
- 松田陽 (2020)「ICOM 博物館定義の再考」, 日本博物館協会『別冊 博物館研究』55
- 松田武雄 (2023a)「信州の公民館の歴史的位相——地域社会における共通善とウェルビーイング」, 『地域社会におけるウェルビーイングの構築——社会教育と福祉の対話』6章, 福村出版
- (2023b)「社会教育主事養成の歴史的特質とカリキュラム」, 『地域社会におけるウェルビーイングの構築——社会教育と福祉の対話』9章, 福村出版
- 松田文登・松田崇弥 (2022)『異彩を, 放て。——「ヘラルボニー」が福祉×アートで世界を変える』新潮社

- 松端克文 (2020) 「共生社会に向けての新しい地域福祉」, 上野谷加代子編著『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割——地域福祉実践の挑戦』第3章, ミネルヴァ書房
- 松本京子 (2017) 「北九州芸術工業地帯モノレール公演『はなれても、燈——聖なる夜のひみつのツアー』」, 『Cul Cul』55・2017年11月号, 北九州市芸術文化振興財団
- 松本茂章 (2011) 「大阪の劇場寺院・應典院の取り組み」, 『官民協働の文化政策——人材・資金・場』4章, 水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- (2019) 「四季文化館みのへれ (茨城県小美玉市) ——シビックプライド形成を目指す自治体直営の文化施設」, 松本茂章編著『岐路に立つ指定管理者制度——変容するパートナーシップ』5章1, 水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- 松本紹圭・遠藤卓也 (2019) 『地域とともに未来をひらく お寺という場のつくりかた』学芸出版社
- 的場昭弘 (2004) 『マルクスだったらこう考える』光文社新書
- (2017) 『マルクスを再読する——主要著作の現代的意義』角川ソフィア文庫
- (2020) 『未来のブルードン——資本主義もマルクス主義も超えて』亜紀書房
- 真野毅 (2016) 「知識創造プロセスを活用した公共セクターのイノベーション——豊岡市の「協働型プログラム評価」の実践事例を通じて」, 源由理子編著『参加型評価——改善と変革のための評価の実践』9章, 晃洋書房
- マルクス, カール (2005[1871]) 「フランスの内乱」, 『フランスの内乱／ゴータ綱領批判／時局論 (上)』辰巳伸知他訳, 筑摩書房
- (2005 [1875]) 「ゴータ綱領批判」, 『フランスの内乱／ゴータ綱領批判／時局論 (上)』辰巳伸知他訳, 筑摩書房
- (2010[1844]) 『経済学・哲学草稿』長谷川宏訳, 光文社古典新訳文庫
- マルクス, カール／エンゲルス, フリードリヒ (2002[1845]) 『新編輯版 ドイツ・イデオロギー』廣松渉編訳・小林昌人補訳, 岩波文庫
- 丸本隆 (2010) 『『劇場監督』制度からみたドイツの公共劇場』, 伊藤裕夫・松井憲太郎・小林真理編『公共劇場の10年——舞台芸術・演劇の公共性の現在と未来』美学出版
- 丸山眞男 (1964) 『増補版 現代政治の思想と行動』未來社
- (1995) 『丸山眞男集 第5巻』岩波書店
- (1998) 『忠誠と反逆——転形期日本の精神史的位相』ちくま学芸文庫
- (2010a) 「軍国支配者の精神形態」, 杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社ライブラリー
- (2010b) 「日本の思想」, 杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社ライブラリー
- 丸山泰明 (2013) 『渋沢敬三と今和次郎——博物館の想像力の近代』青弓社
- マンフォード, ルイス (2000[1922]) 『ユートピアの系譜——理想の都市とは何か [新版]』関裕三郎訳, 新泉社
- 三浦展 (2016) 『下流老人と幸福老人——資産がなくても幸福な人 資産があっても不幸な人』光文社新書
- 三浦太郎 (2013) 「占領下日本における図書館法制定過程」, 今まどり・高山正也編著『現代日本の図書館構想——戦後改革とその展開』勉誠出版
- 御厨貴・阿川尚之・荻野直・牧原出編 (2017) 『舞台をまわす, 舞台がまわる——山崎正和オーラルヒストリー』中央公論新社

参考文献

- 三頭谷鷹史 (2016) 「八幡学園の山下清と沼祐一」, 『芸術批評誌リア 芸術たす+批評+ドキュメント』38 (特集: 障害と創造——当事者として向きあうために), リア制作室
- 水田洋 (2021) 『「知の商人」たちのヨーロッパ近代史』講談社学術文庫
- 水野祐 (2017) 『法のデザイン——創造性とイノベーションは法によって加速する』フィルムアート社
- 見田宗介 (2006) 『社会学入門——人間と社会の未来』岩波新書
- (2012) 「コミュニケーションと最適社会」, 『定本 見田宗介著作集VII 未来展望の社会学』岩波書店
- 道場親信 (2016) 『下丸子文化集団とその時代——一九五〇年代サークル文化運動の光芒』みすず書房
- 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング (2010) 『社会教育施設の評価に関する調査研究【報告書】』
- 葉袋秀樹 (2001) 『図書館運動は何を残したか——図書館員の専門性』勁草書房
- 源由理子 (2020) 『「プログラム評価」とは』, 源由理子・大島巖編著『プログラム評価ハンドブック——社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』1章, 晃洋書房
- 源由理子編著 (2016) 『参加型評価——改善と変革のための評価の実践』晃洋書房
- ミヌーイ, デルフィーヌ (2021[2017]) 『戦場の希望の図書館——瓦礫から取り出した本で図書館を作った人々』藤田真利子訳, 創元ライブラリ
- 美野里町文化センター物語制作委員会編 (2002) 『住民主役・行政支援の文化センターづくり 文化がみのへれ物語』茨城新聞社
- みのへれ物語制作委員会編 (2012) 『まちづくり編集会議——住民主導の文化センターにつどう人たちの物語』日本地域社会研究所
- 宮内泰介 (2017) 『歩く, 見る, 聞く 人びとの自然再生』岩波新書
- 宮城潤 (2018) 「地域の未来を拓く創造拠点——公民館の可能性」, 『月刊社会教育』2018年10月号 (特集: 学びとつながりを育む公民館), 国土社
- 宮崎昭夫 (2007) 「米国における社会福祉協議会の発展と衰退」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』16 (1) https://fukuoka-pu.repo.nii.ac.jp/record/291/files/1601_miyazaki.pdf
- 宮崎惇 (1992) 『棚橋源太郎——博物館にかけた生涯』岐阜県博物館友の会
- 宮沢賢治 (1950) 『宮沢賢治詩集』谷川徹三編, 岩波文庫
- (1995) 『ボラーノの広場』新潮文庫
- (2001) 『宮沢賢治万華鏡』天沢退二郎編, 新潮文庫
- 宮治磨里 (2011) 「ホールボランティアの可能性と課題——パティオ池鯉鮒 (知立市文化会館) の事例を通して」, 藤野一夫編『公共文化施設の公共性——運営・連携・哲学』5章, 水曜社 (文化とまちづくり叢書)
- 宮間純一 (2021) 「民間資料の保存をめぐる現状と課題——多摩地域を中心に」, 蛭田廣一編『地域資料のアーカイブ戦略』6章, 日本図書館協会 (JLA 図書館実践シリーズ)
- 宮本馨太郎 (1985) 『民俗博物館論考』慶友社
- 宮本節子 (2013) 『ソーシャルワーカーという仕事』ちくまプリマー新書
- 宮本太郎 (2021) 『貧困・介護・育児の政治——ベーシックアセットの福祉国家へ』朝日選書

- 宮本常一 (1993) 『民俗学の旅』 講談社学術文庫
- (2003) 「郷土大学開校記念講演」, 佐野眞一『宮本常一のまなざし』みずのわ出版
- ミュラー, ジェリー・Z (2019[2018]) 『測りすぎ——なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?』松本裕訳, みすず書房
- ミルグラム, スタンレー (2012[1974]) 『服従の心理』山形浩生訳, 河出文庫
- 三輪眞木子・吉田右子・辻慶太・竹内比呂也・柴田正美 (2006) 『図書館情報学教育の再構築』, 日本図書館情報学会研究委員会編『図書館情報専門職のあり方とその養成』勉誠出版 (シリーズ図書館情報学のフロンティア)
- (2012) 「図書館情報専門職教育の課題——国際的な調和を目指して」, 『情報管理』54 (8), 科学技術振興機構
- 向谷地生良 (2020) 「べてるの家の実践と労働者協同組合法が社会にもたらすもの」, 『協同の発見』330・2020年5月, 協同総合研究所
- 村井実訳・解説 (1979) 『アメリカ教育使節団報告書』講談社学術文庫
- 村井良子 (2002) 『入門ミュージアムの評価と改善——行政評価や来館者調査を戦略的に活かす』アム・プロモーション
- 村上春樹 (2012) 『1Q84——BOOK3 (10月-12月) 後編』新潮文庫
- 村上泰亮 (1987) 『新中間大衆の時代』中公文庫
- 室田保夫・倉持史朗・峰谷俊隆編著 (2018) 『社会福祉』ミネルヴァ書房 (新・基礎からの社会福祉)
- メニキネリ, マッシモ編 (2020[2017]) 『ファブラボのすべて——イノベーションが生まれる場所』高崎拓哉訳, ビー・エヌ・エヌ新社
- 持田誠 (2023) 「地域博物館におけるコロナ関係資料の収集——北海道浦幌町立博物館の試み」, 地方史研究協議会編『「非常時」の記録保存と記憶化——戦争・災害・感染症と地域社会』岩田書院
- 百木漢 (2016) 「マルクスの未来社会論を再考する」, 『経済社会学会年報』38, 経済社会学会 https://www.jstage.jst.go.jp/article/soes/38/0/38_161/_pdf/-char/ja
- (2018) 『アーレントのマルクス——労働と全体主義』人文書院
- (2023) 「〈悪の凡庸さ〉をめぐる誤解を解く」 田野大輔・小野寺拓也編著『〈悪の凡庸さ〉を問い直す』第I部4, 大月書店
- 森啓編著 (1988) 『市民文化と文化行政』学陽書房 (シリーズ自治を創る)
- 森達也 (2023) 『虐殺のスイッチ——一人すら殺せない人が、なぜ多くの人を殺せるのか?』ちくま文庫
- 森智彦 (2016) 『司書になるには』ペリかん社 (なるには BOOKS)
- 森まゆみ (2023) 「斎藤雷太郎と立野正一——『土曜日』の人々と京都の喫茶店フランソア」, 『暗い時代の人々』6章, 朝日文庫
- モリス, デズモンド/フォックス, ケイト (1995[1993]) 『イギリス Pub ウォッチング』林望訳, 平凡社
- 森分大輔 (2019) 『ハンナ・アーレント——屹立する思考の全貌』ちくま新書
- モルツ, レイモンド・キャスリーン/デイン, フィリス (2013[1999]) 『シビックススペース・サイバースペース——情報化社会を活性化するアメリカ公共図書館』山本順一訳, 勉誠出版, 2013

参考文献

- 諸富徹 (2014)『調査研究報告書 持続可能な地域発展と住民自治組織』全国知事会 <http://www.nga.gr.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/2/h25%20morotomi.pdf>
- (2015)『エネルギー自治』で地域再生！——飯田モデルに学ぶ』岩波ブックレット
- 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 (2020)『図書館実践事例集——地域の要望や社会の要請に応えるために』文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/mext_01041.html
- 薬師院はるみ (2006)「図書館専門職論の理論的系譜」, 日本図書館情報学会研究委員会編『図書館情報専門職のあり方とその養成』第2部, 勉誠出版 (シリーズ図書館情報学のフロンティア)
- (2013)「図書館の職員体制と司書職制度」, 安藤友張編著『図書館制度・経営論』5章, ミネルヴァ書房 (講座・図書館情報学)
- 薬師院仁志 (2012)『日本語の宿命——なぜ日本人は社会科学を理解できないのか』光文社新書
- 薬師院仁志・薬師院はるみ (2020)『公共図書館が消滅する日』牧野出版
- 安井一徳 (2008)『「無料貸本屋」論』, 田村俊作・小川俊彦『公共図書館の論点整理』1章, 勁草書房
- 安岡章太郎 (1997)『イヤな故郷』, 山本七平『私の中の日本軍』解説, 文藝春秋 (山本七平ライブラリー)
- 安岡美佳ユリアン・森江原ニールセン (2022)『北欧のスマートシティ——テクノロジーを活用したウェルビーイングな都市づくり』学芸出版社
- 柳与志夫 (2009)『知識の経営と図書館』勁草書房 (図書館の現場)
- (2015)『文化情報資源と図書館経営——新たな政策論をめざして』勁草書房
- 柳与志夫・田村俊作編 (2018)『公共図書館の冒険——未来につながるヒストリー』みすず書房
- 柳田國男 (2017)『都市と農村』岩波文庫
- (2020)『柳田國男民主主義論集』大塚英志編, 平凡社ライブラリー
- (2023)『明治大正史 世相篇』佐藤健二校注, 角川ソフィア文庫
- 柳田國男・川島武宣 (1964)「婚姻と家の問題」, 『柳田國男対談集』筑摩叢書
- 柳父章 (1982)『翻訳語成立事情』岩波新書
- 八幡学園六十周年編集委員会 (1988)『八幡学園 創立六十周年記念誌』八幡学園
- 矢部明宏 (2012)『地方分権の指導理念としての『補完性の原理』』, 国立国会図書館調査及び立法考査局編『レファレンス』2012年9月号
- 山岸俊男 (1998)『信頼の構造——こころと社会の進化ゲーム』東京大学出版会
- (2015)『「日本人」という, うそ——武士道精神は日本を復活させるか』ちくま文庫
- 山口源治郎 (2017)「自治体行政が責任を持ってこそ公立図書館は発展する」, 『出版ニュース』2017年10月11日号, 出版ニュース社
- 山口周 (2017)『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?——経営における「アート」と「サイエンス」』光文社新書
- 山口瞳 (2018)『山口瞳ベスト・エッセイ』小玉武編, ちくま文庫
- 山口洋典 (2008)「文化創造拠点としての宗教空間——コミュニティとNPO, そして場

- としての寺院」, 井口貢編著『入門 文化政策——地域の文化を創るということ』13章, ミネルヴァ書房
- (2009)『現代におけるコモンズとしての宗教施設の可能性』, 上町台地コミュニティ・デザイン研究会編『地域を活かすつながりのデザイン——大阪・上町台地の現場から』5章補論, 創元社
- 山崎久道 (2015)『情報貧国ニッポン——課題と提言』日外アソシエーツ (図書館サポートフォーラムシリーズ)
- 山崎正和 (2006)『社交する人間——ホモ・ソシアビリス』中公文庫
- (2007)『文明としての教育』新潮新書
- (2023)『柔かい個人主義の誕生——消費社会の美学 [増補新版]』中公文庫
- 山崎雅弘 (2023)『アイヒマンと日本人』祥伝社新書
- 山崎泰孝 (1987)『ホールの計画と運営——伝統芸能劇場から新多目的ホールまで』鹿島出版会
- (2000)『劇場の計画と運営——やわらかい建築へ』鹿島出版会
- 山崎亮 (2011)『コミュニティデザイン——人がつながるしくみをつくる』学芸出版社
- (2012)『コミュニティデザインの時代——自分たちで「まち」をつくる』中公新書
- (2015)『ふるさとを元気にする仕事』ちくまブリマール新書
- (2016a)『縮充する日本——「参加」が創り出す人口減少社会の希望』PHP 新書
- (2016b)『コミュニティデザインの源流 イギリス篇』太田出版
- 山崎亮編 (2019)『ケアするまちのデザイン——対話で探る超長寿時代のまちづくり』医学書院
- 山下隆 (2018a)「指宿図書館・山川図書館 鹿児島県指宿市——地元の女性たちが管理・運営 本と人, 人と人を繋ぎ体験する場として図書館の枠を超えた挑戦」大正大学地域構想研究所『地域人』33 (特集: こんな図書館のあるまちに住みたい) 大正大学出版会
- (2018b)「まちライブラリー——全国に広がる小さな私設図書館」, 大正大学地域構想研究所『地域人』33 (特集: こんな図書館のあるまちに住みたい), 大正大学出版会
- 山下祐介 (2020)『地域学をはじめよう』岩波ジュニア新書
- (2021)『地域学入門』ちくま新書
- 山田明 (2009)『戦前知的障害者施設の経営と実践の研究』学術出版会 (学術叢書)
- 山田奨治 (2021)『著作権は文化を発展させるのか——人権と文化コモンズ』人文書院
- 山西良平 (2008)「公立博物館の在り方をめぐって」, 『博物館研究』43 (12), 日本博物館協会
- (2020)「地方独立行政法人——大阪市における地方独立行政法人を例として」, 金山喜昭編『転換期の博物館経営——指定管理者制度・独立行政法人の検証と展望』5章3, 同成社
- 山之内靖 (1997)『マックス・ヴェーバー入門』岩波新書
- 山室信一 (2018)「文化生活と生活改善」, 鷺田清一編著『大正＝歴史の踊り場とは何か——現代の起点を探る』第二部, 講談社選書メチエ
- 山本七平 (1997a)『私の中の日本軍』文藝春秋 (山本七平ライブラリー)

参考文献

- (1997b) 『ある異常体験者の偏見』 文藝春秋 (山本七平ライブラリー)
- 山本順一 (2008) 「図書館の運営形態」, 国立国会図書館編 『米国の図書館事情 2007 —— 2006 年度国立国会図書館調査研究報告書 (図書館研究シリーズ No.40)』 1 章 1・1・1, 日本図書館協会 <https://current.ndl.go.jp/wp-content/uploads/mig/series/no40/lss40.pdf>
- (2015) 『図書館概論——デジタル・ネットワーク社会に生きる市民の基礎知識』, ミネルヴァ書房 (講座・図書館情報学)
- 山本啓 (2014) 『パブリック・ガバナンスの政治学』 勁草書房
- 山本真人 (2022) 『コモンズ思考をマッピングする——ポスト資本主義的ガバナンス』 BMFT 出版部
- 山森亮 (2009) 『ベーシック・インカム入門——無条件給付の基本所得を考える』 光文社新書
- 尹雄大 (2013) 「爆発する創意——しょうぶ学園の挑戦」, 福森伸編 『しょうぶ学園 40 周年記念誌 創ってきたこと, 創っていくこと——ここには屈託のない笑いがある。』 太陽会しょうぶ学園
- 横大道聡 (2013) 『現代国家における表現の自由——言論市場への国家の積極的関与とその憲法的統制』 弘文堂 (憲法研究叢書)
- 横浜市歴史博物館・神奈川大学日本常民文化研究所編 (2002) 『屋根裏の博物館——実業家渋沢敬三が育てた民の学問』 横浜市歴史博物館
- 横山佐紀 (2019) 『学芸員になるには』 ベリかん社 (なるには BOOKS)
- 横山太郎 (2018a) 「PROPOSAL『こうみんかん Co-Minkan』の提案」, 『社会教育』 2018 年 6 月, 日本青年館「社会教育」編集部
- (2018b) 「わたしたちの Co-Minkan を作るう—— Co-Minkan 普及実行委員会が目指すもの」, 『月刊社会教育』 2018 年 10 月号 (特集: 学びとつながりを育む公民館), 国土社
- 横山宏 (1995) 「『社会教育法解説』『公民館の建設』のすすめ」, 寺中作雄『社会教育法解説/公民館の建設』 国土社 (現代教育 101 選)
- 吉田徹 (2021) 『くじ引き民主主義——政治にイノベーションを起こす』 光文社新書
- 吉田右子 (2008) 「住民による図書館支援の可能性——公共空間の創出に向けて」, 日本図書館情報学会研究委員会編 『変革の時代の公共図書館——そのあり方と展望』 勉誠出版 (シリーズ図書館情報学のフロンティア)
- (2018) 『オランダ公共図書館の挑戦——サービスを有料にするのはなぜか?』 新評論
- 吉田右子・小泉公乃・坂田ヘントネン亜希 (2019) 『フィンランド公共図書館——躍進の秘密』 新評論
- 吉田裕 (2017) 『日本軍兵士——アジア・太平洋戦争の現実』 中公新書
- 吉原史郎 (2023) 「監訳者まえがき」, ロバートソン, ブライアン・J『[新訳] HOLACRACY (ホラクラシー) ——人と組織の創造性がめぐりだすチームデザイン』 吉原史郎監訳, 瀧下哉代訳, 英治出版
- 吉見俊哉 (2020) 『東京裏返し——社会学的街歩きガイド』 集英社新書
- (2021) 『東京復興ならず——文化首都構想の挫折と戦後日本』 中公新書
- 吉本哲郎 (2008) 『地元学をはじめよう』 岩波ジュニア新書

- 吉本光宏 (2003) 「アウトリーチの基礎知識 (1) アウトリーチ活動の位置づけと効果」,
『地域創造レター』97・2003年5月号, 制作基礎知識シリーズ Vol.18, 地域創造
<https://www.jafra.or.jp/library/letter/backnumber/2003/097/2/1.html>
- (2011) 「芸術文化のさらなる振興に向けた戦略と革新を——新生「日本アーツカウンシル」への期待」『文化庁月報』2011年10月号, 文化庁
- (2016) 「地域アーツカウンシル——その現状と展望」, 『ニッセイ基礎研究所報』
60 https://www.nliresearch.co.jp/files/topics/53306_ext_18_0.pdf?site=nli
- 米屋尚子 (2016) 『改訂新版 演劇は仕事になるのか?——演劇の経済的側面とその未来』
アルファベータブックス
- 四方田犬彦 (1999) 「鶴見俊輔の身振り」, 鶴見俊輔『限界芸術論』解説, ちくま学芸文
庫
- 楽園計画編 (2013) 『図書館が街を創る。——「武雄市図書館」という挑戦』ネコ・パプ
リッシング
- ラー, フレデリック (2018[2014]) 『ティール組織——マネジメントの常識を覆す次世
代型組織の出現』鈴木立哉訳, 英治出版
- ランドリー, チャールズ (2003[2000]) 『創造的都市——都市再生のための道具箱』後藤
和子監訳, 日本評論社
- リフキン, ジェレミー (2001[2000]) 『エイジ・オブ・アクセス——あなたは「アクセス
富者」か「アクセス貧者」か』渡辺康雄訳, 集英社
- (2015[2014]) 『限界費用ゼロ社会——〈モノのインターネット〉と共有型経済の
台頭』柴田裕之訳, NHK 出版
- ローゼンバウム, スティーブン (2011[2011]) 『キュレーション——収集し, 選別し, 編
集し, 共有する技術』田中洋監訳, 野田牧人訳, プレジデント社
- ロバートソン, ブライアン・J (2023[2015]) 『新訳 HOLACRACY (ホラクラシー)
——人と組織の創造性がめぐるだすチームデザイン』吉原史郎監訳, 瀧下哉代訳, 英
治出版
- WIRED 編集部 (2021) 『WIRED』42 (特集: NEW COMMONS——コモンズと合意形
成の未来), コンデナスト・ジャパン, プレジデント社
- ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン (2014) 『小さな起業で楽しく生きる』
ほんの木
- 若林恵・畑中章宏『「忘れられた日本人」をひらく——宮本常一と「世間」のデモクラシ
ー』黒鳥社
- 鷲田清一 (2013) 『京都の平熱——哲学者の都市案内』講談社学術文庫
- 鷲田清一編著 (2018) 「学区——コモンズの成り立つ場所」, 佐々木幹郎・山室信一・渡辺
裕『大正=歴史の踊り場とは何か』第1部, 講談社選書メチエ
- 和田岳 (2009) 「博物館とサークル——博物館コミュニティの幅を広げる」, 大阪市立自
然史博物館・大阪自然史センター編『「自然史博物館」を変えていく』3・2, 高陵社
書店
- 和田岳・橘麻紀乃・西澤真樹子・中原まみ (2009) 「大阪自然史フェスティバル 2004 の
たくらみ——地域やサークルとの連携を強化し, 博物館のコミュニティを活性化す
る」, 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編『「自然史博物館」を変えてい
く』3・3, 高陵社書店

参考文献

- 渡部春佳（2023）『公立文化施設のガバナンス論——自治体によるアカウンタビリティの
実践と変容』早稲田大学出版部（早稲田大学エウプラクシス叢書）
- 渡邊斉志（2008）「司書職制度の限界」，田村俊作・小川俊彦編『公共図書館の論点整理』
4章，勁草書房（図書館の現場）
- 渡辺実（1988）「思い出の記」，八幡学園六十周年記念誌編集委員会編『八幡学園創立六
十周年記念誌』八幡学園
- 渡辺ゆうか（2023）「図書館×メーカースペース——これまでとこれからに向けて」，未
来の図書館研究所編『図書館員の未来カリキュラム』5章，青弓社
- 渡辺百合子（2020）「公共図書館司書の悲痛な叫び」，竹信三恵子・戒能民江・瀬山紀子
編『官製ワーキングプアの女性たち——あなたを支える人たちのリアル』V，岩波ブ
ックレット

英語文献

- Arnstein, Sherry. R. (1969), *A Ladder of Citizen Participation*, Journal of American
Institute of Planners Volume 35
- Silverman, Lois H. (2010), *The Social Work of Museums*. Routledge.